

大阪府教育庁文化財調査事務所年報

24

2020年10月

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府教育庁文化財調査事務所は、平成9年に大阪府における埋蔵文化財発掘調査の拠点として開設され、この間、府内における発掘調査、それに伴う整理作業、報告書作成及び埋蔵文化財を活かした普及啓発活動を主な業務として実施しています。

令和元年度においては、調査を43件実施し、調査面積は約8,500m²でした。

そのうち発掘調査は4件実施しました。主なものとして富田林市中野北遺跡では、古墳時代後期のカマドを持つ住居跡が発見され、岸和田市大町遺跡では、工房跡と考えられる建物跡が発見されました。遺跡に近接する田鶴羽古墳群との関係も想定されます。また、大町遺跡では、中世の畦から大量の羽釜・瓦器・土師器が出土しており、近辺に集落が存在したことを想定させます。大阪市東田辺遺跡では、中世の井戸が発見されるなど、多くの知見を得ることができました。

加えて、富田林市外子遺跡の確認調査では、縄文時代後期のピット・土坑が発見され、縄文土器や石器も出土しました。さらに、飛鳥時代の小規模な石室を発見することができ、耳環などが出土しました。

一方、普及・啓発・公開事業については、発掘調査現場の現地公開、府内出土の資料を利用した展示会の開催、府立博物館との連携事業をはじめとして、講演会、収蔵庫の公開などを約45回実施しました。

令和元年度の調査成果や普及・啓発・公開事業など調査事務所の実施した事業が、学術面や教育面で役立つことを願っています。最後にこの場をお借りしまして事業実施にご協力いただきました関係の皆様にお礼申し上げます。

令和2年10月31日

大阪府教育庁文化財保護課長

大野 広

例　　言

1. 本書は大阪府教育庁文化財調査事務所年報第24冊である。
2. 本書には令和元（平成31）年度に文化財調査事務所が実施した埋蔵文化財調査報告及び公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査概要報告の表題には以下の内容を示す。
　遺跡名（令和元（平成31）年度調査番号）
　（1）　所在地
　（2）　調査の原因となった事業
　（3）　調査担当者
　なお、概要報告表題の調査番号は表3の調査番号に一致する。
4. 各項の執筆分担
 - ・「令和元（平成31）年度における埋蔵文化財調査の概況」　　調査事業グループ
 - ・「主要発掘調査の概要報告」　　調査事業グループ
 - ・「資料紹介」　　調査管理グループ
 - ・「事業報告」　　調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。

目 次

はじめに
例 言
目 次
挿図目次 表目次 グラフ目次

令和元（平成 31）年度における埋蔵文化財調査の概況 1

【主要発掘調査の概要報告】

| | |
|-------------------------|----|
| 東田辺遺跡（19003）..... | 6 |
| 中野北遺跡（19007）..... | 7 |
| 向泉寺跡（19010）..... | 8 |
| 大町遺跡・田鶴羽遺跡（19017）..... | 10 |
| 府中遺跡（19020）..... | 12 |
| 西野々古墳群・外子遺跡（19025）..... | 13 |
| 高井田横穴群（19026）..... | 17 |

【資料紹介】

| | |
|------------------|----|
| 藤の森古墳の円筒埴輪 | 19 |
| 藤の森古墳出土の甲冑 | 26 |

【事業報告】

| | |
|-------------------------------------|----|
| 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業 | 29 |
| 令和元（平成 31）年度収蔵資料 | 33 |
| 令和元（平成 31）年度調査・研究等の検討会 | 33 |
| 令和元（平成 31）年度大阪府教育庁文化財保護課刊行物一覧 | 33 |
| 令和元（平成 31）年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧 | 34 |
| 令和2年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図 | 39 |

挿 図 目 次

| | |
|--|----|
| 図 1 令和元（平成 31）年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図 | 4 |
| 図 2 主要調査位置図 | 5 |
| 図 3 調査位置図 | 6 |
| 図 4 調査区平面図 | 6 |
| 図 5 調査位置図 | 7 |
| 図 6 1区 穫穴住居 | 7 |
| 図 7 調査位置図 | 8 |
| 図 8 調査風景（No.5 北東から） | 8 |
| 図 9 調査区配置図 | 9 |
| 図 10 調査箇所断面模式図 | 9 |
| 図 11 出土遺物実測図 | 9 |
| 図 12 大町遺跡・田鶴羽遺跡と調査区の位置 | 10 |
| 図 13 003 穫穴建物 | 11 |
| 図 14 003 穫穴建物 土坑出土土器の状況 | 11 |
| 図 15 004 穫穴建物 | 11 |
| 図 16 092 穫穴建物 | 11 |
| 図 17 調査地位置図 | 12 |
| 図 18 調査地全景（南から） | 12 |
| 図 19 B区 07 柱穴（南から） | 12 |
| 図 20 B区 03 溝（北西から） | 12 |
| 図 21 調査地位置図 | 13 |
| 図 22 各調査区位置図 | 14 |
| 図 23 各調査区基本順序 | 15 |
| 図 24 古墳石室（No.27） | 16 |
| 図 25 調査地および調査区位置図 | 17 |
| 図 26 トレーンチ位置図 | 18 |
| 図 27 現地写真 | 18 |
| 図 28 墳頂部から垂直方向に裾部をみる | 19 |
| 図 29 墳丘裾部（北西調査区） | 19 |
| 図 30 藤の森古墳出土円筒埴輪実測図1（S=1/3） | 21 |
| 図 31 藤の森古墳出土円筒埴輪実測図2（S=1/3） | 22 |

| | |
|---------------------------------|----|
| 図 32 藤の森古墳の円筒埴輪 ①～⑤グループの代表例 | 23 |
| 図 33 藤の森古墳出土頭甲・肩甲実測図 (S= 1 / 2) | 27 |
| 図 34 藤の森古墳出土頭甲・肩甲写真 | 28 |
| 図 35 大学生インターンシップ | 30 |
| 図 36 JICA 研修 | 30 |
| 図 37 中学生職場体験学習 | 30 |

| | |
|-------------------------------------|----|
| 図 38 大阪府立狭山池博物館「古代の装身具」展関連講演会 | 30 |
| 図 39 大町遺跡現地公開 | 30 |
| 図 40 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開 | 30 |
| 図 41 大阪狭山市立東小学校 6 年生の出前授業 | 30 |
| 図 42 大阪府立弥生文化博物館・弥生プラザ「古墳時代の池上曾根遺跡」 | 30 |

表 目 次

| | |
|--|-------|
| 表 1 原因別調査面積・件数一覧 (面積: m ²) | 1 |
| 表 2 地域別調査面積・件数一覧 (面積: m ²) | 1 |
| 表 3 令和元 (平成 31) 年度調査箇所一覧 | 3・4 |
| 表 4 藤の森古墳出土円筒埴輪観察表 | 24・25 |
| 表 5 令和元 (平成 31) 年度文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧 | 31・32 |

| | |
|----------------------|----|
| 表 6 実物資料・複製資料長期貸出 | 34 |
| 表 7 実物資料・複製資料短期貸出 | 35 |
| 表 8 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載 | 35 |
| 表 9 資料閲覧 | 38 |

グ ラ フ 目 次

| | |
|---------------|---|
| グラフ 1 原因別調査面積 | 2 |
| グラフ 2 原因別調査件数 | 2 |

| | |
|---------------|---|
| グラフ 3 地域別調査面積 | 2 |
| グラフ 4 地域別調査件数 | 2 |

令和元（平成31）年度における埋蔵文化財調査の概況

【発掘調査と面積】

大阪府教育委員会が令和元年度に実施した調査件数は、発掘調査が4件、確認調査が4件、立会調査が31件、試掘調査が2件、分布調査が2件の合計43件であった（表3）。

調査面積は、算出が困難な一部の立会調査を除き、8,592m²である。全体として、調査件数は前年度の63件から43件に減少したものの、調査面積は平成30年度の6,908m²から8,592m²へと、約25%増加している。これは立会調査の件数が前年度の45件から31件と減少したものの、1件あたりの発掘調査面積が大きく増加したことによる。

原因別で調査件数と面積の推移をみると、表1に示したとおり、道路事業については平成27年度から増加傾向にあったが、平成30年度は調査件数と面積ともに大幅に減少し、令和元年度はさらに減少した。住宅事業については、調査件数は近年ほぼ横ばいであり、過去3年の調査件数に変化はない。

調査面積は平成28年度から大幅に減少していたが、令和元年度は一転増加した。学校事業については、近年少ない傾向が続いているが、令和元年度は調査面積、件数ともに大幅に増加した。また、その他の事業として、鉄道関係や警察関係の事業が挙げられる。調査件数は減少しているものの、調査面積が大幅に増加したのは、これらの新規事業に伴う発掘調査面積が増加したためである。

地域別にみると、平成30年度は調査面積全体の約80%を泉南、北河内、中河内内で占めていたが、今年度は南河内、大阪市内、泉北で約80%を占めた。

表1 原因別調査面積・件数一覧（面積：m²）

| 年度 | H22年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | 29年度 | | 30年度 | | R元年度 | | |
|------|--------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|---|
| | 原因別 | 面積 件数 | | |
| 住 宅 | 6,454 | 14 | 6,227 | 12 | 124 | 9 | 727 | 10 | 1,800 | 5 | 108 | 8 | 4,616 | 7 | 745 | 5 | 175 | 5 | 1,470 | 5 | |
| 農 林 | 1,754 | 4 | 1,254 | 3 | 1,741 | 3 | 1,995 | 4 | 959 | 4 | 264 | 2 | 20 | 2 | 224 | 5 | 2 | 2 | 1,303 | 1 | |
| 道 路 | 4,968 | 27 | 5,255 | 20 | 6,404 | 25 | 6,988 | 22 | 2,138 | 8 | 3,778 | 17 | 5,239 | 11 | 6,255 | 19 | 1,998 | 18 | 293 | 7 | |
| 下 水 | 1,011 | 16 | 1,650 | 9 | 16 | 1 | 8 | 1 | 0 | 1 | 118 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 1 |
| 河 川 | 36 | 4 | 0 | 1 | 48 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3,690 | 4 | 10 | 1 |
| 学 校 | 0 | 1 | 318 | 2 | 78 | 3 | 760 | 4 | 10 | 2 | 50 | 1 | 0 | 6 | 46 | 3 | 1 | 4 | 1,292 | 14 | |
| その他の | 563 | 30 | 888 | 33 | 2,120 | 43 | 4,155 | 23 | 4,535 | 23 | 597 | 13 | 635 | 22 | 728 | 19 | 1,042 | 29 | 5,367 | 14 | |
| 合 計 | 14,786 | 96 | 15,592 | 80 | 10,531 | 85 | 14,633 | 64 | 9,442 | 45 | 4,915 | 45 | 10,510 | 52 | 7,998 | 51 | 6,908 | 62 | 8,592 | 43 | |

表2 地域別調査面積・件数一覧（面積：m²）

| 地域 | H22年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | 29年度 | | 30年度 | | R元年度 | |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| | 面積 件数 | |
| 大阪市 | 85 | 4 | 3,209 | 10 | 98 | 3 | 414 | 5 | 2,621 | 3 | 22 | 3 | 150 | 7 | 173 | 6 | 59 | 5 | 1,606 | 7 |
| 泉 南 | 1,534 | 6 | 449 | 6 | 81 | 8 | 865 | 4 | 0 | 4 | 240 | 2 | 361 | 4 | 212 | 4 | 3,969 | 9 | 1,282 | 5 |
| 泉 北 | 4,444 | 9 | 1,552 | 7 | 1,166 | 6 | 1,139 | 5 | 0 | 2 | 2,757 | 6 | 9,181 | 11 | 5,782 | 8 | 146 | 7 | 1,550 | 7 |
| 南河内 | 2,620 | 12 | 1,691 | 9 | 3,985 | 14 | 3,767 | 11 | 1,742 | 9 | 653 | 11 | 619 | 8 | 598 | 5 | 123 | 7 | 3,784 | 9 |
| 中河内 | 1,212 | 28 | 2,224 | 13 | 1,091 | 21 | 686 | 18 | 317 | 9 | 141 | 10 | 135 | 9 | 0 | 1 | 766 | 13 | 194 | 6 |
| 北河内 | 3,616 | 21 | 2,086 | 12 | 1,391 | 9 | 116 | 5 | 559 | 5 | 800 | 3 | 0 | 4 | 94 | 12 | 1,063 | 11 | 99 | 3 |
| 三 島 | 1,205 | 11 | 2,336 | 20 | 2,673 | 22 | 712 | 15 | 867 | 10 | 254 | 5 | 60 | 7 | 91 | 6 | 332 | 9 | 77 | 6 |
| 豐 施 | 70 | 5 | 2,045 | 3 | 46 | 2 | 3,334 | 1 | 3,336 | 3 | 48 | 5 | 4 | 2 | 1,048 | 9 | 450 | 1 | 0 | 0 |
| 合 計 | 14,786 | 96 | 15,592 | 80 | 10,531 | 85 | 14,633 | 64 | 9,442 | 45 | 4,915 | 45 | 10,510 | 52 | 7,998 | 51 | 6,908 | 62 | 8,592 | 43 |

ることとなった。

南河内地域では鉄道関係に伴う発掘調査を、大阪市内では警察関係の事業に伴う発掘調査を行い、調査面積が増加した。両地域で、全体の約60%を占めている。

過去10年における調査面積や件数などを概観すると、平成22年度以降減少傾向にあったが、平成28年度は調査面積と件数は増加に転じた。特に面積の増加要因は、新規の住宅事業によるものである。その後、調査面積や件数は全体として減少傾向にある。平成22年度と令和元年度を比較すると調査面積は約40%減、調査件数は約56%の減である。原因別では、学校やその他の事業に伴う調査面積や件数が大幅に増加しているものの、道路事業の減少が著しく頭著である。

【主な調査成果】

令和元年度の調査成果については、6頁以降に7件の主な発掘調査成果について掲載しており、ここでは、これらについて時代別に調査成果を概観する。

縄文時代

富田林市伏見堂に所在する外子遺跡では、トレンチ調査で縄文時代後期のピット・土坑が検出され、土器、石器も出土した。当地ではかつて縄文時代の石器が採集されているが、遺跡の存在が発掘により確認された。

古墳時代～古代

富田林市外子遺跡では、丘陵端部において埋没した飛鳥時代の小規模な石室を確認した。全体の形状

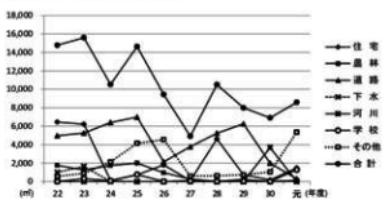
は判明していないため、竪穴式石室か、無袖の横穴式石室であるかは不明である。当遺跡はこれまで縄文時代の遺跡と認識されており、新たな見知を得ることができた。また、隣接する西野々古墳群にある千代塚古墳隣接地において、古墳時代の遺物は出土していないものの、埴丘を巡る溝が確認されており、同古墳に伴う周溝と考えられる。柏原市高井田横穴群では、古墳の石材の一部と思われる石が集積している状況で確認されている。

一方、富田林市中野北遺跡では古墳時代後期の住居跡が確認された。カマドも残存しており、土師器の直口壺が上下逆に置かれた状態で検出されている。その他、落ち込みから須恵器、土師器、移動式カマドが出土している。なお、隣接する宮町遺跡では古墳も検出されており、周辺一帯に古墳時代の集落の広がりが認められる。

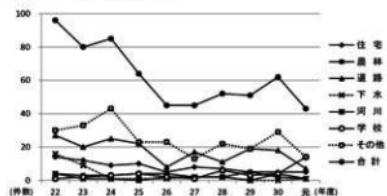
岸和田市大町遺跡では、住居ではなく工房跡と考えられる竪穴建物が複数確認されている。大きく2つのタイプに分類されるようであり、この遺跡に隣接している田鶴羽古墳群との関係も想定されている。なお、大町遺跡では、旧河道内から弥生時代末から古墳時代前半の土器が多く出土しており、集落が一定期間存続したものと考えられる。

大阪市東田辺遺跡では、顕著な遺構は検出されなかったが古墳時代中期後半の須恵器が包含層からまとめて出土しており、今後の調査によって遺跡の広がりが確認される可能性もある。和泉市府中遺跡では、古墳時代の河川が確認され、古墳時代前期の土師器が出土しており、当時の遺跡周辺の地形を考えるうえで参考となる。

グラフ1 原因別調査面積



グラフ2 原因別調査件数



中世

大阪市東田辺遺跡では掘立柱建物や井戸などが確認された。井戸から14世紀後半～15世紀の瓦質土器や瓦器などの遺物が出土している。和泉市府中遺跡では礫を敷いた幅約1.5mの溝が確認されており、14世紀末には埋没したとされる。土地の区画溝のような性格が考えられている。富田林市西野々古墳群や外子遺跡でも、瓦器や羽釜などが出土するとともに、溝などの遺構も確認された。当該地周辺で中世の遺跡はほとんど確認されておらず、新たな見知を得ることができた。

岸市向泉寺跡では、瓦器、土師器、瓦が出土している。近世頃の造成にあたって混入した遺物と考えられる。岸和田市大町遺跡では畔の中から、大量の羽釜、瓦器椀・皿、土師器皿、須恵器捏鉢などが出土している。近辺に集落が存在したと思われる。

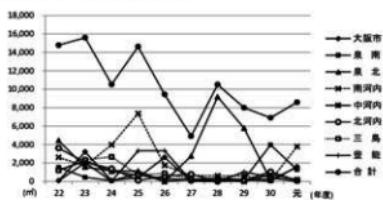
【発掘調査現場の公開等と遺物整理事業】

令和元年度における発掘調査現場の現地公開については、東田辺遺跡、大町遺跡で実施し多数の参加を得ることができた。東田辺遺跡では、近隣の東田辺小学校の生徒も訪ね、和やかな雰囲気のなか開催できた。また、富田林市中央公民館において中野北遺跡とその周辺の遺跡の発掘成果について、富田林市教育委員会と共にロビー展示を行った。

この他、発掘調査成果については文化財保護課ホームページに逐次掲載した。遺物整理事業は10件を行い、発掘調査報告書を4冊刊行した。

(閔 真一)

グラフ3 地域別調査面積



グラフ4 地域別調査件数

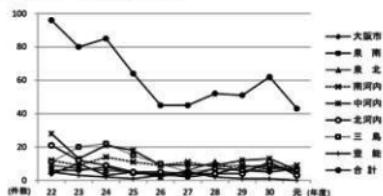


表3 令和元(平成31)年度調査箇所一覧(1)

太字は本書に概要報告が記載されているもの

| 調査番号 | 道 緯 名 | 所 在 地 | 種別 | 調査開始 | 調査終了 | 調査面積 | 担当者 | 事 業 課 | 業 業 名 |
|-------|------------------------|-------------------|----------|------------|------------|------|---------------|------------------------------------|--|
| 19001 | 羅道跡隣接地 | 四條畷市美山町 | 立会 | 平成31年4月4日 | 平成31年4月4日 | 9. | 市川 | 大阪府域水道企業 団東部事業所 | 分岐管設置事業(引締端 水道事業・四條畷分岐) |
| 19002 | 陶邑宮跡群 陶邑山地区 | 堺市南区晴美台一丁目 | 立会 | 平成31年4月8日 | 平成31年4月8日 | 14 | 石川 | 大阪府域水道企業 団南部事業所 奈良良 | 分岐管設置工事(河南通新 管・大阪桃山川ほか) |
| 19003 | 東田辺遺跡 | 大阪市東住吉区東田辺二 丁目 | 発掘 | 令和元年7月3日 | 令和元年11月29日 | 1554 | 奈良 藤田 | 大阪府警本部 事務課 | 大阪府東住吉警察署改築工 事 |
| 19004 | 小寺遺跡 | 岸和田市上町 | 立会 | 令和元年7月29日 | 令和元年7月29日 | 6 | 井西 | 都市整備部岸和田 土木事務所 | 毛利地方道原と山道堀原線 透過程事業 |
| 19005 | 筑の堀遺跡 | 吹田市元町 | 立会 | 令和元年5月24日 | 令和元年5月24日 | 3 | 間 | 大阪府域水道企業 団北部事業所 | 排水管設置工事(西中正道 透過程・吹田川ほか) |
| 19006 | 橋本町界ノ下遺跡 | 枚方市橋本 | 確認 | 令和元年6月5日 | 令和元年6月5日 | 39 | 奈良 余良 | 貝塚本第2号宅地整理 工事 | |
| 19007 | 中野北遺跡 | 富田林市宮町 | 発掘 | 令和元年7月1日 | 令和2年2月28日 | 1930 | 三木 村田 | 都市整備部富田林 土木事務所 | 近鉄野瀬駅独立立体交差 事業 |
| 19008 | 晉田臼遺跡 | 羽曳野市晉田三丁目 | 立会 | 令和元年7月5日 | 令和元年7月22日 | 15 | 間 | 都市整備部富田林 土木事務所 | 一眼道17号羽曳野市役 所前電線共用敷工事 |
| 19009 | 陶邑宮跡群 高達寺地区 | 堺市南区福塚台一丁目 | 立会 | 令和元年7月9日 | 令和元年7月30日 | 200 | 間 | 住宅まちづくり部 設置事 | 環状1号線住宅エレベーター 設置工事 |
| 19010 | 向豊寺跡 | 堺市南区三国ヶ丘町二 丁目 | 立会 | 令和元年7月9日 | 令和元年7月9日 | 15 | 奈良 | 教育厅施設財務課 | 人頭税立・三国ヶ丘高等学級ブ ロック隔離改修工事 |
| 19011 | 道臣郡条里遺跡 | 寝屋川市高宮町西 | 立会 | 令和元年7月16日 | 令和元年7月16日 | 30 | 奈良 田中 | 大阪府域水道企業 団航行施設工事(道臣南 国東部事業所) | 航行施設工事(道臣南 国東部事業所) |
| 19012 | 遺跡外(残存古墳頃 地) | 堺市湖東区上野芝町一 丁目 | 立会 | 令和元年8月5日 | 令和元年8月5日 | 5 | 奈良 木村 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立羽曳野学校別教 室空室設置工事 |
| 19013 | 長原遺跡 | 大阪市平野区長西田辺三 丁目 | 立会 | 令和元年7月25日 | 令和元年7月25日 | 11 | 井西 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立平野支援学校空調 設置工事 |
| 19014 | 平尾遺跡 | 堺市美原区平尾 | 立会 | 令和元年7月25日 | 令和元年7月25日 | 3 | 奈良 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立美原高等学級ブ ロック隔離改修工事 |
| 19015 | 西福井遺跡 | 茨木市西福井四丁目 | 立会 | 令和元年6月21日 | 令和元年8月5日 | 9 | 間 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立茨木支援学校非常 用施設改修工事 |
| 19016 | 大阪城跡西波之跡 難波(以生浦)大阪跡 | 大阪市天王寺区清水谷町 | 立会 | 令和元年8月16日 | 令和元年8月16日 | 10 | 木村 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立清谷高等学校ブ ロック隔離改修工事 |
| 19017 | 大町遺跡 | 岸和田市大町 | 発掘 | 令和元年10月1日 | 令和2年2月21日 | 1029 | 三木 石田 | 住宅まちづくり部 設置事業 | 大阪府立大町町立新設 道場構築事業 |
| 19018 | 石津遺跡 | 堺市西区石津町東 | 立会 | 令和元年10月8日 | 令和元年10月8日 | 10 | 間 | 財務財産部活用課 | 石津川流域敷地立会調査 |
| 19019 | 小阪台遺跡 | 八尾市南小阪台町一丁目 | 立会 | 令和元年10月15日 | 令和元年10月18日 | 30 | 井西 | 東部河川下水道事 務所 | 枚方市立南小阪台(二)(第2 工区)下水道渠築造工事 |
| 19020 | 府中遺跡 | 和泉市府中町五丁目 | 発掘 | 令和元年11月19日 | 令和元年2月28日 | 203 | 奈良 | 都市整備部土木 事務所 | 和泉市計画課大阪府和泉山 海岸防護施設事業 |
| 19021 | 小坂合遺跡 | 八尾市庄内町二丁目 | 立会 | 令和元年11月28日 | 令和元年11月28日 | 5 | 井西 | 都市整備部八尾土 木事務所 | 主計室清整事業に付随する池 底等工事 |
| 19022 | 丹比大溝 | 松原市新堂一丁目 | 立会 | 令和元年12月5日 | 令和元年12月5日 | 1 | 奈良 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立丹比高等学級外3 号ブロック隔離改修工事 |
| 19023 | 西福井遺跡 | 茨木市西福井四丁目 | 立会 | 令和元年12月16日 | 令和元年12月16日 | 1 | 奈良 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立茨木支援学校別教 室空室設置工事 |
| 19024 | 遺跡外 | 東大阪市近江堂三丁目 | 試掘 | 令和元年12月20日 | 令和元年12月20日 | 4 | 井西 | 住宅供給公社 | 大阪府立庄子供給公社連携事 業 |
| 19025 | 西野古墳群 外子遺跡 | 富田林市大字伏見堂 | 確認 | 令和2年1月18日 | 令和2年3月19日 | 130 | 間 木村 石田 | 環境農林水産部農 政室 | 府農村総合整備事業(伏 見堂地区) |
| 19026 | 高井川橋六郡 | 柏原市大字高井田 | 確認 試掘 | 令和2年1月10日 | 令和2年3月19日 | 129 | 井西 | 福被郡子ども室 | 児童被災支援施設巡回調査 事業 |
| 19027 | 河内遺跡 | 貝塚市橋本 | 立会 | 令和2年1月10日 | 令和2年1月10日 | 10 | 石川 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立貝塚南高等学校下 水道渠切削工事 |
| 19028 | 貴振遺跡 | 八尾市貴振町 | 立会 | 令和2年1月16日 | 令和2年1月16日 | 22 | 井西 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立八尾高等学級外1 号体操競技場空調設備工事 (八尾北地区等学校) |
| 19029 | 谷川遺跡 | 富田林市谷川町 | 立会 | 令和2年1月27日 | 令和2年1月27日 | 31 | 井西 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立大場高等学級外1 号体操競技場空調設備工事 (富田林市等学校) |
| 19030 | 大町遺跡 | 岸和田市大町 | 立会 | 令和元年11月11日 | 令和元年11月14日 | 198 | 三木 | 住宅まちづくり部 設置事業 | 用地開拓推進事業(岸和田 大町) |
| 19031 | 遺跡外 | 富田林市宮町 | 立会 | 令和2年1月20日 | 令和2年1月21日 | 80 | 木村 | 都市整備部富田林 土木事務所 | 近鉄長野原單独立体交差事 業 |
| 19032 | 川北遺跡 | 藤井寺市川北一丁目 | 立会 | 令和2年2月7日 | 令和2年2月7日 | 1576 | 間 | 大阪府警本部 藤井寺 | 大阪府東住吉警察署西岡 地区の2 |
| 19033 | 雁屋遺跡 | 西蘿湖市雁屋北町 | 立会 | 令和2年2月13日 | 令和2年2月13日 | 60 | 間 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立西蘿湖高等学級財 團施設改修工事 |
| 19034 | 熊山遺跡 | 大阪市守口区熊山町三 丁目 | 立会 | 令和2年2月11日 | 令和2年2月11日 | 4 | 井西 | 教育厅施設財務課 | 大阪府立桃谷高等学級財 團施設改修空調設備工事 |
| 19035 | 東田辺遺跡 | 大阪市東住吉区東田辺二 丁目 | 立会 | 平成31年4月15日 | 令和元年5月8日 | 130 | 井西 間 奈良 | 大阪府警本部 藤井寺 | 大阪府東住吉警察署西岡 地区の2 |
| 19036 | 美園遺跡 | 八尾市美園町 | 立会 | 令和2年3月9日 | 令和2年3月9日 | — | 井西 | 都市整備部八尾土 木事務所 | 未利用地処理促進事業 |
| 19037 | みかん山古墳群 | 東大阪市東吉瀬町 | 立会 | 令和2年3月12日 | 令和2年3月12日 | 25 | 奈良 | 商工労働部雇用推 進室政課 | 元吉瀬山古墳地盤物調査 |

表3 令和元（平成31）年度調査箇所一覧（2）

| 調査番号 | 道 緯 名 | 所 在 地 | 種別 | 調査開始 | 調査終了 | 調査面積 | 担当者 | 事業課 | 事 業 名 |
|-------|----------------|---------------------------------|----|------------|------------|------|----------------|-------------------------|------------------|
| 19038 | 金剛寺旧境内跡地 | 高麗山城合・御園地内 | 分布 | 令和元年7月10日 | 令和元年7月10日 | — | 岡本 小泉 | NEXCO西日本新 名神大阪西事務所 | 新名神高速道路 |
| 19039 | 跡部遺跡 | 八尾市春日町一丁目地内 | 立会 | 令和元年9月18日 | 令和元年9月18日 | — | 岡本 | JR貨物関西事業 開発支店 | 造草立継地開発計画 |
| 19040 | 日置遺跡 | 吹田市日置一丁目地内 | 立会 | 令和元年11月11日 | 令和元年11月11日 | — | 岡本 | JR西日本大阪工 事務所 | 吹田立継地近代化 |
| 19041 | 三ツ島西遺跡隣接地 他 | 大阪市鶴見区猪野一丁目 ～門真市三ツ島二丁目地 内 | 分布 | 令和元年11月5日 | 令和元年11月5日 | — | 岡本 小泉 | NEXCO西日本新 名神大阪東事務所 | 淀川左岸線延伸 |
| 19042 | 桃原寺跡隣接地 | 高麗山桃原二丁目地内 | 試掘 | 令和2年2月3日 | 令和2年2月5日 | 64 | 岡本 | NEXCO西日本新 名神大阪東事務所 | 新名神高速道路 |
| 19043 | 太井遺跡 | 堺市美原区北北部 | 確認 | 令和2年3月24日 | 令和2年3月24日 | 1110 | 井西 京良 木村 | 教育庁教育振興室 高等学校課 建替 | 大阪有立農芸高等学校 建設 |

課長 保存管理グループ

【文化財保護課】

文化財企画グループ

調査管理グループ

調査管理補佐
山上 弘

主査

横田 明 事務所・収蔵庫維持管理等

主任専門員

山本 彩 収蔵資料の整理・管理等

副主査

杉本清美 収蔵資料の整理等

副主査

石角三夫 積算および竣工検査等

副主査

鶴井陽輔 文化財公開活用事業等

専門員

阪田育功 報告書作成の遺物・資料整理等

専門員

竹原伸次 資料貸出・閲覧等

調査事業グループ

事業調整総括
グループ長 主査 主査 間 真一
井西貴子

主査

藤田道子 発掘調査・遺物整理等

主任専門員

三木 弘 調整・指導・発掘調査等

副主査

木村啓章 調整・発掘調査・遺物整理等

技師

奈良拓亦 調整・発掘調査・遺物整理等

技師

石田尚子 調整・発掘調査・遺物整理等

【文化財調査事務所】

図1 令和元（平成31）年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図



図2 主要調査位置図

東田辺遺跡（19003）

- (1) 大阪市東住吉区東田辺二丁目
- (2) 大阪府東住吉警察署改築工事
- (3) 余良拓弥・藤田道子

はじめに

東田辺遺跡は東住吉警察署改築工事に先立ち平成29年に試掘調査を実施し、新たに埋蔵文化財包蔵地として周知した遺跡である（図3）。

上町台地の南東部に位置し、東には駒川と今川が流れる。標高はT.P.+ 5 ~ 6 mで低位段丘上に立地する。

調査は2区画に分けて令和元年8月から11月まで実施した（図4）。調査面積は1,554m²である。



図3 調査位置図

調査成果

基本層序は、近現代の盛土の直下に近世の耕作土があり、その下には中世の耕作土があった。中世の耕作土を掘削すると基盤にあたる低位段丘層が確認できた。

既存の建物基礎によって多くの遺構が失われていたが調査では井戸、柱穴、鋤溝、溝などを検出した（図4）。

02 井戸

径は上端で1.7 m、下端で0.8 mを測る。2段掘りの断面を呈する。埋土からは瓦器や瓦質土器などが出土した。14世紀後半～15世紀。

掘立柱建物

中世の耕作土を除去または鋤溝の下層において柱穴群を検出した。2×2間の掘立柱建物として復元できる。柱穴からは土師器の破片が僅かに出土したのみで時期の詳細は不明である。

溝

1区において複数の溝を検出した。既存の建物基礎により全形を知ることができるものはない。

いずれの溝も底面の形状が凸凹しており、埋土が

均質である。断面や平面を検討した結果、樹木の根に由来すると判断した。樹木の根を伐根するためには掘削を行いその結果溝状の形状となり、窪みとして残された部分に周辺の土が堆積したと推測される。溝からは遺物が出土しておらず時期を決めがたいが、層序及び遺構埋土の検討から古墳時代に属するを考える。

出土遺物

須恵器・土師器・瓦器・瓦質土器・陶磁器などが出土した。

特に古墳時代の中期後半の須恵器が2区でまとまって出土した。包含層からの出土であるが破片が大きく接合できる個体も多かった。また、陶質土器と考えられる破片も出土した。

まとめ

今回の調査では上町台地の南東部における土地利用の変遷について明らかにすることができた。

伐根跡と考えられる溝は、古墳時代中期後半にさかのぼる可能性が指摘できる。また、中世になって井戸や掘立柱建物など集落域となるがその後は耕作地へと変貌し近代まで続いた。



図4 調査区平面図

中野北遺跡（19007）

- (1) 富田林市宮町
- (2) 近鉄長野線独立立体交差事業
- (3) 三木・弘・木村啓章・石田尚子

はじめに

中野北遺跡は富田林市中野町～宮町に所在する。東を流れる石川の中位段丘の中央部に位置し、粟ヶ池を取り囲み、その南東側に広がる遺跡である。発掘調査は、主要地方道美原太子線（粟ヶ池工区）道路改良事業のうち近鉄長野線高架事業に伴うもので、粟ヶ池の西岸に接する旧線路部分の高架化工事が行われる約南北約300mにわたる範囲において実施した。調査区は高架部分を中心に北から順番に1～7区に分割して調査を行った（図5）。

調査の概要

調査区全体の基本的な層序は、盛土、近代～現代までの鉄道盛土、数面にわたる近代～中世の耕作土の直下が地山層となっている。地山層上面において中世以前の遺構を確認した。

調査区全体の現地表はおおむねTP.+56.5m前後であるが、地山までの深さは各調査区によって異なり、旧地形は起伏に富んでいた。全体の傾向として調査区の西側から東側、粟ヶ池側にむかって傾斜し、南北方向には1区から4区にかけて旧地形が下がり、4区北側で最深となる。4区中央から南にかけて、現地表とあまり変わらない高さまで地形が上がり5区で最も高くなり、6区の北側からまた下がっていく地形となる。地形の最浅部と最深部の比高差は2m程度になる。こうした地形の下がった所では、かつての粟ヶ池の堆積と考えられる水成堆積層を1～4区及び6区で確認した。この堆積は層序及

び出土遺物から中世以降と考えられ、中世にはおおむね現在と同じ範囲まで池が広がっていたことが想定される。

各調査区の概要是、以下のとおりである。

1区は、近代～中世にかけての耕作層下に地山面に古墳時代の遺構を確認した。6世紀後半の竪穴住居、ピット、土坑を検出し、竪穴住居からは須恵器杯身、土師器甕などが出土した（図6）。竪穴住居内のカマドでは、土師器の直口壺が逆さに置かれて状態で出土した。また調査区北東側で近世の耕作土の直下に池の堆積を確認した。2区は、近代～中世にかけての耕作層下の地山面に、中世以前の溝を確認した。また調査区南東側に近世の耕作土直下に池の堆積を確認した。3区は、近代～中世にかけての耕作土層下に、調査区ほぼ全面に池の堆積を確認した。調査区南西側に池岸を盛土により護岸した痕跡を確認した。この盛土は近世のものと考えられる。4区は、近代～中世にかけての耕作土層下に、3区より続く盛土層を確認した。さらにその下層は地山となっているが、調査区北東側に自然の落ち込みがあり、古墳時代後期の須恵器蓋杯身、甕、高杯、土師器甕、移動式カマドなどが廃棄された状態で出土した。5区は、旧地形が最も高くなってしまい、盛土の直下が地山であった。多くは近代以降に削平を受けていると考えられる。6区・7区は、近代から近世～中世の耕作土層の下、地山面に中世以前の流路などの遺構を確認した。また調査区中央東側、旧地形が南から下がったところでは近世の耕作土の下に池の堆積を確認した。



図5 調査地位図



図6 1区 竪穴住居

こうせんじ 向泉寺跡（19010）

- (1) 堺市堺区南三国ヶ丘町二丁
(2) 大阪府立三国丘高等学校ブロック塀改修工事
(3) 奈良拓弥

はじめに

天平15（743）年に行基によって創建されたと伝えられる向泉寺は、府立三国丘高等学校一帯にあったと推定されている（図7）。寺は永正年間（1504～21）の兵火により塵灰と化し、市之町東五丁に移転している。その後、明治期に神仏分離のために廢寺となり寺の施設や資料などは失われてしまつた。

三国丘高等学校内では3度の発掘調査が行われているが、これまでに寺院に関わる遺構は発見されていない。

今回の調査は、府教育庁施設財務課が実施する三国丘高等学校のブロック塀改修工事に伴う立会調査である。調査はポールの基礎を新たに設置する部分を対象とした。11箇所の調査区において遺物及び遺構の有無等を確認し、順序を観察した（図9）。

調査成果

基本層序は、学校建設に伴う盛土の直下に基盤層となる風化礫が混じる粘質シルト層が認められた。No.5～7においては学校建設前の旧耕作土及び後述する遺物包含層である整地土が認められた。近世から現代の削平及び造成により一帯は平坦面化しており、近世以前の堆積層は地形が低くなっている部分にのみ残存していると考えられる（図10）。

調査区No.5・7において遺物の出土が認められた。特に遺物の多かったNo.7においては工事掘削深度が遺物出土面と重なったことから、面の精査を行い遺構の有無を確認した。基盤層と遺物包含層の違いは確認できたが明確な遺構は認識できなかった。工事掘削深度が遺物出土面より深くならないことを確認したため、表面に見えている遺物のみを採取し、それ以下の掘削は行わなかった。

遺物の出土状況は、基盤層にある風化礫や大礫と同じように瓦や土器が混じっていた。

出土遺物

No.5においては瓦器の小破片が2点出土した。No.7では土師器・瓦器・瓦が出土した（図11）。

1は土師器皿である。口縁部は回転ナデによりや直線的に外方へと延びる。内外面ともに磨滅が激しく調整は不明である。2は瓦器皿である。外側の体部にユビオサエが残る。内外面ともに磨滅が激しく調整は不明である。14世紀後半。3は平瓦である。

凸面に縦目が明瞭に残る。凹面は弧状のコビキ跡が残り、面取りがなされる。磨滅により調整は不明である。4は丸瓦である。凸面には模骨の痕、円弧上のコビキ痕、布目及び綴じ目痕が認められる。凹面にはわずかに工具の痕跡が残るが磨滅が激しく判然としない。

まとめ

No.5及びNo.7において中世の遺物が出土した。これは、1991年に実施した調査（大阪府教育委員会1992『向泉寺跡発掘調査概要・III』）の出土状況と同様である。報告書においても言及されているが近世の頃に瓦礫を整理し整地したと思われる。今回の調査箇所はまさに南に北西に開く開析谷へと標高を下げる先端部にある。出土した遺物は平坦面を造成するため窪地などに瓦礫を投入した結果であると判断できる。



図7 調査地位置図



図8 調査風景（No.5 北東から）

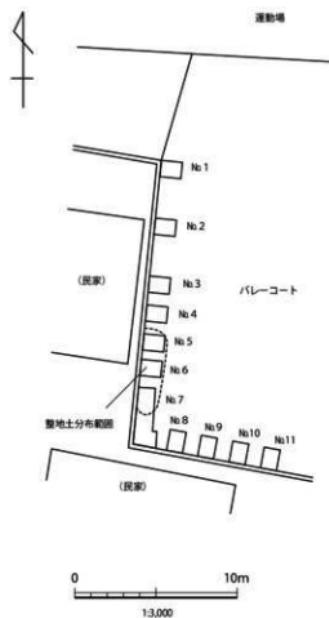
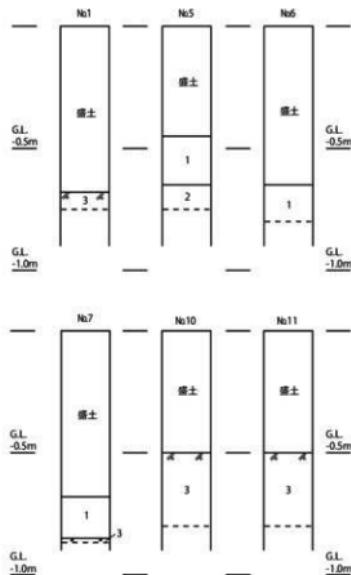


図9 調査区配置図



1. 【耕作土】灰黄褐色（10YR5/2）細砂混じり砂質シルト
2. 【整地土】明褐色（7.5YR5/6）風化礫～細砂混じり粘質シルト
3. 【基盤層】明赤褐色（5YR5/8）風化礫～細砂混じり粘質シルト

図10 調査箇所断面模式図

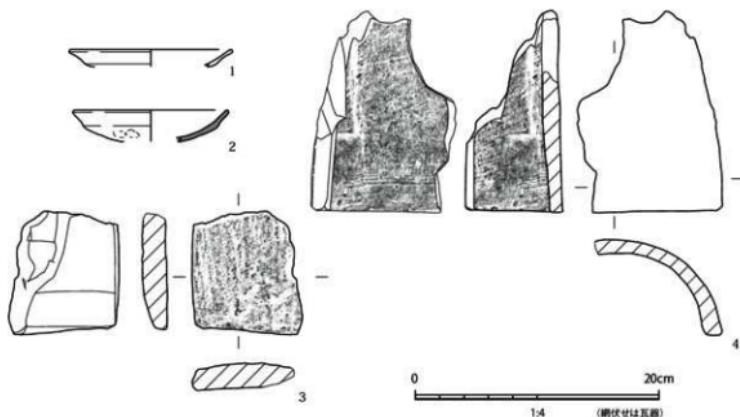


図11 出土遺物実測図

おなまち たづは
大町遺跡・田鶴羽遺跡（19017）

- (1) 岸和田市大町
(2) 大阪府岸和田大町住宅新設道路構築事業
(3) 三木・弘・石田尚子

はじめに

府営岸和田大町住宅内道路整備事業に伴い、令和元年10月から翌年2月にかけて発掘調査を実施した。調査区は2ヶ所あり、ひとつは岸和田市立八木市民センター南西隣の空閑地南辺に沿った幅10m、長さ90mのA区、いまひとつは八木市民センター北東のB区で、幅10m、長さ12mを測る。

大町遺跡は大町住宅の敷地範囲を中心に広がる遺跡で、縄文時代後期から弥生・古墳時代、平安時代、鎌倉・室町時代および近世の遺物が発見されている。なかでも弥生時代末から古墳時代前半期にかけての土器は遺跡内全域で出土し、主に遺跡内を縱横に削り込んだ旧河道内に数多く含まれていた。

大町遺跡の西に田鶴羽遺跡が隣接している。平成元年に集合住宅建設に先立って岸和田市教育委員会が行った発掘調査で6基の方墳が発見されている。

このたびの発掘調査はA区が大町遺跡、B区が田鶴羽遺跡に該当しているので本来は区別するべきではある。しかし説明の煩を避けるため、遺跡の峻別を特に必要とする場合を除き、大町遺跡と表現する。
既往の調査成果からみた大町遺跡

発掘調査のたびに多くの土器が出土する大町遺跡であるが、そこには一つの特徴がみられる。それは、当該期の和泉地域の集落における非在地系土器として比較的認められる吉備や四国東部系統の土器とともに東海西部、あるいは東海東部とのつながりを想定できる土器も含まれている点であり、和泉地域の中でも異なる様相を呈している。

文化財保護課では、平成15年度から22年度にかけて遺跡内の14地点で発掘調査を行った。ところが04-1区で検出した直列する3基の炉状跡とそれに平行して貼床された長さ2.2m、幅1.5mほどの掘り込みを除くと建物跡はみられなかった。その理由としては、旧河道内から出土する多量の土器が物語るように、洪水による集落の消滅を考えられる。しかも土器だけでなく、上流から流された自然木が河道内で重なりあっている状況も複数の地点でみられ、洪水の激しさを示していた。

令和元年度の発掘調査成果

本文で取り上げる発掘調査地点、とりわけA区は、大町遺跡の最も西、久米田古墳群が占地する丘陵部の裾端近くに位置し、遺跡内でも比較的高所にある。



図12 大町遺跡・田鶴羽遺跡と調査区の位置

一方B区は、久米田池に接続する用水路“天の川”的旧地形である谷状地に大半が当たっている。このB区の谷状地は、A区の中央以南につながる。

A区北西域 A区では、調査区北西端から40m付近までと、それから南東端までの範囲で検出遺構の時期や種類に違いがみられる。前者の約400mには古墳時代中期中葉の竪穴建物4軒、掘立柱建物5棟が発見された。また建物に先行する旧河道や溝、それらと重複する位置で建物群廃絶後に改めて掘削された溝も認められ、それらから多くの土器が出土している。

4軒の竪穴建物は、形状や構造から2つのタイプに分かれる。ひとつは長さ4m、推定幅3mほどの平面長方形を呈し、主柱がなく、壁に沿って直径20cmほどの壁柱穴が巡る。貼床はなく、掘方底を水平に整えて床面としている。炉あるいは竈はない。002竪穴建物と092竪穴建物が該当する。002竪穴建物からは初期段階の須恵器が出土している。

いまひとつのタイプは、平面形状が1辺3.0～3.5mほどの正方形で、掘方底上の貼床と併せて壁に沿って高さ5～10cm、幅40cmほどのテラス部を設けている。このタイプの建物にも主柱は見当たらず、壁沿いに壁柱が巡る。また先のタイプと同じく炉や竈が認められない。003竪穴建物と004竪穴建物が該当する。

ところで後者タイプの2軒には、建物の機能を示

唆する構造が認められる。003 穫穴建物では貯蔵穴とみられる土坑が横並びしている。およそ長径 0.8 ~ 0.6 m、短径 0.5 m、深さ 0.3 mで、土坑壁に灰白粘質土を 0.1 m 近い厚さで貼り付けている。西土坑から、布留式甕の上半部が出土した。さらに東西土坑の間に長径 0.5 m、短径 0.4 m、深さ 0.1 m の平面長方形を呈する小土坑も設けられ、内部には灰白色粘質土が充填されていた。

004 穫穴建物では、建物の北寄りで長さ 25 cm、幅 15 cm、厚さ 10 cm の長方形の花崗岩を、床面から 5 cmほど突出させて設置していた。しかもその上面が水平になるように掘方との間に灰白色粘質土を詰めて固定している。花崗岩の頂面には押打痕が認められ、作業用台石であったことを示している。

また 092 穫穴建物では鉄分を含有した砂質土が堆積した浅い掘り込みが床上 3ヶ所に認められた。

掘立柱建物は 5 棟を確認した。2間・3間 1 棟、2間・2間 2 棟など、規模は大きくない。また、3 棟は重複しており、さらに 004 穫穴建物とともに重なり合う掘立柱建物もあることから、その形成には時間幅がある。

A区中央以南 A区では北西端から 40 m 以南では、基盤層の上に 10 cm程度の厚さで中世耕作土が堆積していて、さらに 62 m 付近で谷状地に向かって下降する崖線に沿って構築された畦の中から、100 個体以上の土師質や瓦質の羽釜をはじめ、瓦器椀・皿、土師器皿、須恵器捏鉢・瓦質摺鉢・甕、瓦などの中世の遺物がまとまって出土した。

B区 B区は、西から延びる低位段丘面と約 1.2 m 下がった谷状地の各上面で中世、そして谷状地においては古代末まで遡る可能性のある耕作土を検出した。ことに谷状地での耕作の確認は、平成 22 年度の 10~3 区に続く調査成果であり、遺跡周辺の土地利用を検討する上で重要な成果である。

大町遺跡と田鶴羽古墳群

田鶴羽古墳群は A区の約 70 m 北に位置する、主に 5 世紀後半に比定される 1 辺 8~12 m 程度の方墳 6 基で構成された古墳群である。また、実体不詳の池尻古墳も隣在している。

今回検出された建物群は古墳群よりもやや先行するものの比較的近い時期にあるとみられるところから、古墳群と建物群とのつながりを想定することは充分可能である。

その一方で、4軒の畝穴建物はいずれも主柱や火廻を欠いていて、一般的な住居跡とは考えがたく、むしろ、003 穫穴建物の粘土貼り土坑（貯蔵穴）、004 穫穴建物の台石に注目すると、古墳群造成に関わる工房群という見方も浮上する。

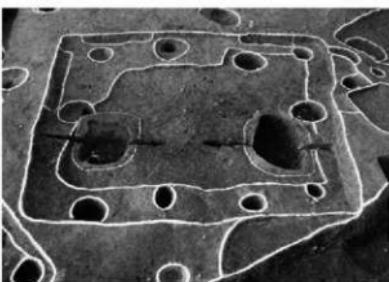


図 13 003 穫穴建物



図 14 003 穫穴建物 土坑出土土器の状況



図 15 004 穫穴建物



図 16 092 穫穴建物

府中遺跡（19020）

- (1) 和泉市府中町五丁目
- (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線街路築造事業
- (3) 奈良拓弥

はじめに

府中遺跡は、横尾川右岸の信太山丘陵との間に形成された低位段丘上に立地しており、遺跡内に和泉国府跡や和泉寺跡の推定地を含む、東西1km、南北1.2kmの広範囲にわたる遺跡である（図17）。

都市計画道路大阪岸和田南海線の建設に伴い平成20年度より発掘調査を断続的に実施しており、今回の調査区域は平成27～28年に実施した調査の東に隣接する箇所にあたる（大阪府教育委員会2018『府中遺跡』・大阪府教育委員会2019『府中遺跡II』）。

調査は、現況の水路を挟んで北側をA区、南側をB区として実施した。令和元年12月に開始し、令和2年3月に終了した。調査面積は203m²である。

調査成果

A区

耕作に伴う溝を検出したのち、河川堆積を確認した。前回調査においても検出しており4～5世紀頃まで河川として機能していたとされる。深くなるこ

とが予想されたため河川の掘削は一部にとどめた。古墳時代前期の土師器が出土しており、前回の調査成果と整合する。

B区

既存の調査箇所に隣接する箇所での調査であったため前回の調査で確認した溝の延長部分を検出した。また、新たに柱穴を検出した（図19）。

新たな成果としては北西から南東に軸を持つ疊敷溝を検出した。03溝と名付けた溝は、幅約1.5mを測り、溝の中心部分に一定の大きさの礫を敷いていた（図20）。土地を区画するための溝と考えられる。溝の埋土からは、中世の遺物が出土し14世紀末には埋没したと推定される。

まとめ

今回の調査では古代の土器が多く出土したが、検出した遺構はいずれも中世以降に属すると考えられる。河川が堆積した後、一帯は集落域となり集落が放棄されてからは一貫して耕作地として利用されており、畑や水田が営まれていた。



図17 調査位置図



図19 B区07柱穴（南から）



図18 調査地全景（南から）



図20 B区03溝（北西から）

にしのの げし 西野々古墳群・外子遺跡（19025）

- (1) 富田林市大字伏見堂
(2) 府営農村総合整備事業「伏見堂地区」
(3) 関 真一・木村啓章・石田尚子

はじめに

西野々古墳群及び外子遺跡は富田林市伏見堂に所存し、石川の左岸に位置する。石川が大きく蛇行したことにより形成された舌状に張り出した低位段丘上に遺跡が広がっている（図21）。過去の分布調査等によって、西野々古墳群においては5基の古墳（うち1基は消滅）が見つかっており、外子遺跡においては、縄文時代の石礫が散布していることが確認されている。明八塚（西野々1号墳）の周溝を確認した北側の道路部分以外、発掘調査はほとんど行われていない。

今回、南河内農と緑の総合事務所の府営農村事業とともになう整備事業に先駆けて、遺跡内の遺構・遺物の分布を確認するために、切土が計画されている部分を中心に調査トレント（30ヶ所 130m²）を設定し、重機及び人力によって掘削を行い、各トレントの土層の変化、遺構・遺物の有無を確認した。

| | 各トレントの大きさ・面積 |
|---------------------|---|
| No.1～14、16～23、28、29 | 5m ² × 1m = 5m ² |
| No.15 | 2m ² × 1m = 2m ² |
| No.24 | 3m ² × 1m = 3m ² |
| No.25、26、30 | 5m ² × 2m = 10m ² |
| No.27 | 9m ² × 1m = 9m ² |

調査の概要（図22、23）

○ No. 1、No. 3

事業地の北東側、伏見堂公民館の北東側に調査区を設定した。No.1、No.3の層序は地表から2面の近現代の耕作土の下、暗褐色土（砂・礫混じり）の上面に中世（鎌倉時代）の柱穴や溝を検出した。遺



図21 調査地位置図

物は13世紀代の土師皿、甕、瓦器、羽釜などが出土した。

○ No.2

事業地北東側の山裾に近い箇所に調査区を設定した。地表から2面の近現代の耕作土の下に、明黄褐色～ぶい黄褐色砂質土（シルトブロック混じり）の盛土、耕作土と思われる灰黄色シルト層、にぶい黄褐色砂質シルト層の2面を確認した。盛土及び耕作土からわずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。

○ No.4

事業地中央東側、獄山山麓側に調査区を設定した。地表から2面の近現代の耕作土の下に、にぶい灰黄色砂質土（シルトブロック混じり）の盛土、さらにその下に黒色粘質土の湿地状の堆積物を確認したが、遺構は確認できなかった。

○ No.7

事業地の北西に調査区を設定した。現代の耕作土の下に、砂が混じる褐灰～灰黃粘質土層、礫を含む暗褐色砂質土層、褐色砂質土層を確認したが、遺構は確認できなかった。

○ No. 5、No. 6、No.8

No.5、6は古墳（千代塚）の北東側、No.8は古墳の南西側に調査区を設定した。No.5、No.6ともに、地表から現代の耕作土下、灰褐色～褐色砂礫層上面に、古墳の周溝と想定される溝を検出した。No.5、6の検出状況より墳丘裾に沿って溝が走っていることから、古墳の周溝である可能性が高い。なお遺物については、溝内から中世の遺物を確認したが、古墳時代の遺物は確認できなかった。

No.8は現代の耕作土の下に、褐灰～灰黃粘質土（砂混じり）、礫を含むにぶい黄褐色粘質土層、礫を含むにぶい黄褐色砂質土層を確認したが、遺物、遺構、特に古墳の周溝は確認できなかった。

○ No.9

No.8の南側に調査区を設定した。現代の耕作土の下に、にぶい黄褐色土層（礫混じり）、にぶい黄褐色砂礫層を確認した。遺物包含層、遺構は確認できなかった。

○ No.10～13、29、30

No.10～13、29、30は事業地中央から西側に広がる一区画に調査区を設定した。No.13、No.29、



図22 各調査区位置図

No.12は方墳と考えられる西野々第3号墳に接する箇所に調査区を設定した。各調査区ともにおおむね層序は一致し、現代の耕作土の下に、ぶい黄褐色～暗褐色土（砂礫混じり）、暗褐色土（砂礫混じり）、河川堆積によるものと考えられる砂礫層を確認した。No.10、11、30は、さらにその東側に調査区

を設定した。それぞれ現代の耕作土の下に、褐色灰色砂質土、暗褐色粘質土（疊混じり）などを確認したが、特にNo.30では、最下層に河川の堆積に起因する砂礫層を確認し、この上層の所々にこの砂礫を含む層があることから後世に大きく改変を受けていることが確認された。いずれの調査区においても

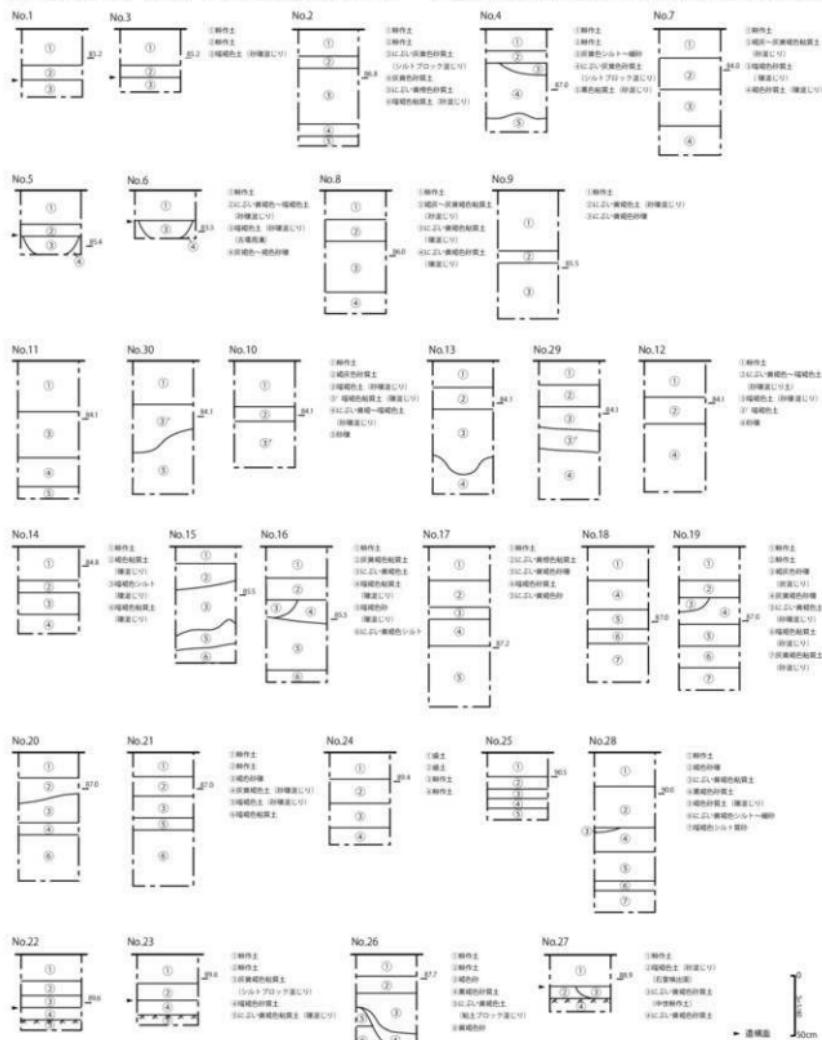


図23 各調査区基本層序

遺構は確認できなかった。

◎ No.14

事業地内西側に調査区を設定した。現代の耕作土の下に、褐色粘質土層（礫混じり）、暗褐色土層（礫混じり）（暗褐色粘質土層（礫混じり））を確認した。遺物、遺構は確認できなかった。

◎ No.15、16

No.15、16は、事業地の中央より西側、No.10～13、29、30の区画の南側に調査区を設定した。No.15、16の層序は一致し、現代の耕作土の下に、灰黄褐色粘質土層、にぶい黄褐色土層、暗褐色砂層（礫を含む）、にぶい黄褐色シルト層を確認した。遺物、遺構は確認できなかった。

◎ No.17

事業地のおおむね中央に調査区を設定した。現代の耕作土の下に、にぶい黄橙色粘質土層、にぶい黄褐色砂質土層（礫を含む）、暗褐色砂質土層、にぶい黄褐色砂礫層を確認した。遺物、遺構は確認できなかった。

◎ No.18～21

No.18～21は、石川が西側に曲がる地点の北側にひろがる区画内に調査区を設定した。No.18、19は、現代の耕作土の下に、灰黄褐色砂質土層、にぶい黄褐色土層（砂礫混じり）、暗褐色粘質土（砂混じり）、灰黄褐色粘質土（砂混じり）の層序でおおむね一致するが、No.19では、2面の近現代の耕作土の下に、部分的に整地層と想定される褐灰色砂礫土層（炭混じり）を確認した。No.20、No.21では、2面の近現代の耕作土の下に、褐色砂礫層、灰黄褐色土層（砂礫混じり）、暗褐色粘質土層を確認した。いずれの調査区においても遺物、遺構は確認できなかった。

◎ No.22、No.23

No.18～21の東側、河岸段丘を上がった箇所に調査区を設定した。No.22は、2面の近現代の耕作土の下に、灰黄褐色粘質土（シルトブロック混じり）、暗褐色砂質土上面で、縄文時代後期のピット・土坑などを確認した。No.23も層序はおおむね一致し、2面の近現代の耕作土の直下、暗褐色砂質土上面に縄文時代の遺構を確認した。両調査区からは、後期から晩期と考えられる縄文土器、石器、敲石などが出土した。

◎ No.24

石川に流れ込む河川によってつくられた谷状の地形の斜面地に調査区を設定した。2面の現代の盛土の下に、近現代の耕作土2面を確認した。遺物、遺構は確認できなかった。

◎ No.25、No.28

No.25、28は、石川の河岸段丘と石川に流れ込む河川によってつくられた尾根状の地形上に調査区を設定した。

No.25は、現代の耕作土の下に、褐色砂礫層、にぶい黄褐色粘質土層、黒褐色砂質土層、褐色砂質土層（礫混じり）を確認したが、遺構、遺物は確認できなかった。No.28の層序はおおむねNo.25と一致するが、層厚は全体的に厚くなる。ともに、遺構、遺物は確認できなかった。

◎ No.26

No.24同様、谷状の地形の斜面地上の段々畑に調査区を設定した。2面の近現代の耕作土の下、調査区の南側に落ち込み状に堆積した褐色砂層、にぶい黄褐色土層から13世紀代の土師皿、瓦器、土師質の羽釜遺物がまとまって出土した。

◎ No.27

No.25、No.28と同様な尾根状の地形の南端部分に調査区を設定した。地表から耕作土を除去した暗褐色土上面で、これまで未確認であった小規模な古墳の石室を確認した（図24）。地表から2.0m程度で検出されており、石室の棺台と想定される面が部分的に検出されたことから石室は削平されており、埴丘そのものも確認することはできなかった。また古墳の周溝も今回の調査区内では確認できなかった。調査は石室を検出した上でとどめ、内部については掘削を行っていないが、古墳の石室内からは飛鳥時代の須恵器、耳環が出土した。

まとめ

今回の確認調査では、対象エリアの中央から西側（低位段丘の下がっていくエリア）においては、遺構が希薄であったが、北東側や南側の相対的に標高が高くなっている地点のNo.22、23（縄文時代）、5、6、27（古墳～飛鳥時代）、1、3、26（中世）の8箇所、5つのエリアにおいて、これまで未確認であった遺構及び遺物の集中する箇所を確認した。



図24 古墳石室（No.27）

高井田横穴群（19026）

- (1) 柏原市大字高井田
- (2) 児童自立支援施設検討調査事業
- (3) 井西貴子

はじめに

高井田古墳群では、現在までに 162 基の古墳が確認され、4 つの支群に分かれている。第 2 ~ 4 支群は国史跡に指定されており、史跡公園として公開されている。東側の第 1 支群は府立修徳学院内に存在している。

福祉部子ども室は高井田横穴第 1 支群及び高井田横穴群の範囲内に 2 棟の建物を建設する計画を立て、遺跡の範囲内であることから文化財保護課との協議がなされた。その結果、古墳の有無を確認するための試掘・確認調査を実施することとなった。調査区は 2 カ所（A 区・B 区）、調査期間は令和 2 年 1 月 10 日 ~ 3 月 19 日である。

A 区の調査成果（図 25・26）

水路を挟んで北側と南側に、それぞれ南北トレンチ 3 本（1 × 10 m）と東西トレンチ 1 本（1 × 30 m）を設定した。総面積 114 m² である。

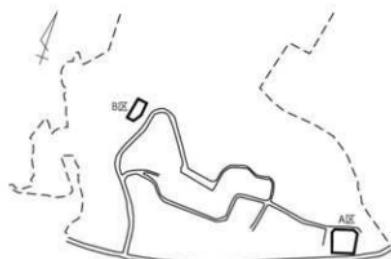


図 25 調査地および調査区位置図

トレンチ 1 の北側、トレンチ 4 の西から 10 m までは、盛土層約 0.3 m を除去するとすぐに地山層となる。トレンチ 1 の北から 7 m より南側は、かく乱を受け、地山は確認できなかった。他に地山が確認できたのは、トレンチ 2・3・7 であるが、検出深度は G.L. - 0.6 m である。トレンチ 1 の南側の地山検出面は北側に比して 0.3 m 低くなっている。おそらく、地山面が削平されたのである。他のトレンチでは、トレンチ 4 で G.L. - 0.9 m まで、他は G.L. - 0.4 ~ 0.7 m まで掘削したが、地山層を確認することはできなかった。

当該調査区で地山層が確認できたのは、調査区北西部部分（G.L. - 0.3 m）と北東部分である（G.L. - 0.6 m）。水路の南側のトレンチでは地山を確認することができなかった。以前の建物を建設するにあたって、北から南へ傾斜する斜面北側を削り、南側に盛土をして平坦面を作った可能性が指摘できる。

トレンチ 1 の南から 1 m の地点、G.L. - 0.5 m で以前の建物の基礎を確認した。トレンチ 1、トレンチ 5 では、タイル、ガラス片が出土している。

トレンチ 6 とトレンチ 8 の交差する付近、G.L. - 0.6 m で、長軸約 1.6 m の弧状を呈する落ち込みの肩を確認した。溝の可能性も考えられるので、トレンチを西側に拡張して平面形の検出に努めた。結果、西側で遺構は途切れ、土坑状の遺構であることを確認した。埋土からは瓦などが出土した。

トレンチ 7 とトレンチ 8 の交点の北西部で、20 ~ 50 cm の石のかたまりを確認した。これらの石は古墳の石室の一部と考えられるが、石の下からステンレスが確認されたことから、これらの石が原位置を保っているとは考えにくい。おそらく、付近から運ばれ、放棄されたものとみられる。

B 区の調査成果（図 25・26）

南北トレンチを 1 本（1 × 15 m）設定した。部分的に G.L. - 0.5 m まで掘削したが、地山層を確認することはできなかった。埋土からは、多量のレンガ、瓦、コンクリート基礎が出土した。

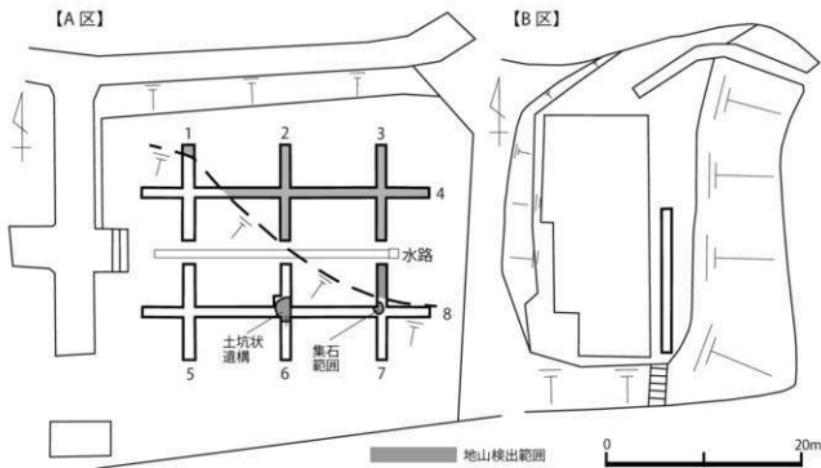


図 26 トレンチ位置図



A区 地山



A区 集石



A区 土坑



B区 瓦・レンガ

図 27 現地写真

藤の森古墳の円筒埴輪

はじめに

藤の森古墳は、世界遺産として登録された古市古墳群にかけて存在していた古墳である。昭和40年に、大阪府水道部美陵ポンプ場の建設に伴い発掘調査がおこなわれ、調査の結果、藤の森古墳は径約22mの円墳で、幅2.5~4mの周濠が巡ることが判明した。

墳丘中央には南に開口する横穴式石室が構築されており、左片袖式の平面プランを持つ長方形の玄室は長さ3.5m、幅1.5mで、長さ1m、幅1mの短い羨道がつく。石室は、板状の石材を小口積に積み、玄室の上半部は持ち送りされている。羨道部は、板石や、塊石で閉塞されている。この石室は、畿内で最も早く横穴式石室を採用したと位置付けられている。すなわち藤の森古墳は初現期の横穴式石室の様相を知る上で大変重要な役割をもつ古墳である。石室は、上部から盜掘にあってはいたが、石室内からはガラスの玉と勾玉・甲片・鹿角装刀子・鉄鉢・鐵鎌・鉄釘・鏡などの遺物が発見されている。

大阪府教育庁文化財保護課は、これらの貴重な資料を公開・展示できるよう平成27年度から鉄製品の保存処理を実施している。またその過程で藤の森古墳の出土品の再整理作業もおこなっている。その結果報告として、2017年刊行の調査事務所年報21では、鉄鉢を紹介した。2019年刊行の年報23では、鉄鎌・鉄釘・鏡について紹介している。今回の年報では、墳丘裾に設置されていた円筒埴輪について紹介したい。

(1) 墳丘裾の円筒埴輪

昭和40年の報告書¹⁾によると、「・・・古墳の裾部で周濠より内側に円筒埴輪をめぐらしていた。北半部において、円弧を描く30本の円筒埴輪列を

検出できた。・・・」とある。

調査当時の写真(図28・29)(報告書では未公開)をみると、墳丘のほぼ真北方向に開けられたトレンチ両側の北西、北東の調査区で墳丘裾にあたる部分に円筒埴輪列が一重巡っているのが確認できる。これらの埴輪は、やや倒れているものもあるものの、藤の森古墳の築造当時の原位置をほどどめているものと思われる。

保管されていた円筒埴輪には、昭和40年の現地調査時に記入されたと思われる「2(もしくは)3区、No○○」という注記(マーキング)が残っているものが多数みられた。調査写真で確認した北東、北西二つの調査区どちらが、2、3区になるかは現在のところ確定できていない。しかし個別番号は、埴輪円筒列の埴輪を一つずつ取り上げるときに付されたものとすると、個別No付きの埴輪は、埴輪円筒列の埴輪と推定でき、少なくとも2、3区それぞれの区での埴輪の並ぶ順番は復原できると思われる。

今回の再整理は、この地区名と個別Noを持つ埴輪片をさがしだし、接合・復元することからはじめた。その結果、底部径もしくは底部高を計測できる円筒埴輪19点を抽出することができた。ここではこの19点の資料から藤の森古墳の円筒埴輪の特徴を明らかにしていきたい。

(2) 墓輪の分類

19点の埴輪は、外面の調整に使用されている工具の原体より①から⑤の5つのグループに分類した。そして法量・残存状況・底部の状況・外外面調整・色調・胎土・焼成等詳細を調べ観察表(表4)を作成し、また実測図を作成した(図30・31)。観察表と実測図はこのグループ順に掲載している。①から⑤のグループの詳細を述べていく。



図28 墓頂部から垂直方向に裾部をみる



図29 墓丘裾部（北西調査区）

① ・外面調整：10条／1cmの細かいハケ

19点のうち4個体が①に該当する。詳細を観察すると、3個体の資料は底部の歪みが大きいなど共通点が多い。しかし2区No.4の個体は、細かいタテハケのち、ヨコハケがほどこされており、静止痕もみられ、他の3個体とは異なる要素が多いことが判明した。

② ・外面調整：8条／1cmのハケ

一段目はナナメ・タテハケ、工具の幅しか確認できない箇所が多い

19点のうち3個体が該当する。3個体共タガの幅・高さが不揃いで、外面調整以外でも共通する点が多いまとまったグループになった。

③ ・外面調整：5～6条／1cmのハケ

一段目はナナメ・タテハケ

19点のうち3個体が該当する。底部径15cm前後、底部高9～12cmを測る。

④ ・外面調整：5～6条／1cmのハケ

一段目はナナメ・タテハケの上から
ヨコハケ、静止痕もみられる

19点のうち3個体が該当する。底部径14cm前後、底部高9～11cmを測る、器壁が分厚い(2cm前後)が、底部径・底部高は小さいグループである。

⑤ ・外面調整：5～6条／1cmのハケ

一段目はナナメ・タテハケの上からヨコハケ、
静止痕がはっきり残る。

19点のうち最も多い6個体が該当する。底部径17cm前後、底部高11～13cmを測り、平均した法量が5つのグループの中で最も大きい、底部から斜め上方にまっすぐ伸びる形状をもち、器形が整っている。

詳細に観察すると、2区No.8の個体はタテハケの上から施されたヨコハケが、上下2段の静止痕を持つことがわかり、他の個体と異なる要素を持つことが判明した。

ここまで①から⑤のグループの詳細である。藤の森古墳に設置されていた円筒埴輪は、外面の調整や法量など、さまざまな要素を検討すると、少なくとも5～7種類以上にグループわけが可能な個体が存在していたといえよう。

(3) 埋輪の設置状況

次にこれらの円筒埴輪がどのように並んでいたか、(あくまで注記マーキングされたNoが取り上げNoと仮定しての話であるが) 検討してみたい。

観察対象とした19点の埴輪を2、3区それぞれの地区のNoが存在するのかならべてみる。接合作業の結果、二つの注記Noを持つ個体や、同じNoで異なる個体となったものもあるので、個体ごとにNoを

○で括った。

2区⇒ (1)、(2-1)、(2-2)、(4)、(5)、(8)、(12)

3区⇒ (3-5)、(6)、(8-9)、(10-1)、(10-2)、
(9-11)、(11)、(7-12)、(12-13)、(14)、(15)、
(16)

この取り上げNoを①から⑤のグループ名に置き換えてみると、下記の通りになった。

2区⇒ ⑤③⑤①⑤⑤⑤

3区⇒ ③⑤①②④①①④②②③④

2、3区両方の区共に、取り上げNoが全てそろっていないので、完全な復原とは言い難いが、グループ⑤のような器形が整って、調整も美しく仕上げられた埴輪とグループ④のような法量の小さな埴輪が、アトランダムな順番に並べられていた可能性が高いことが判明した。

おわりに

検討の結果、藤の森古墳には形状・色調・調整など見た目がさまざまな、少なくとも5種類以上のグループに分けられる円筒埴輪が設置されていたことが判明した。そしてこれらの埴輪は、さまざまなグループから無作為に選択して並べられていた可能性が高いこともわかった。

先述のとおり、藤の森古墳は初現期の横穴式石室の様相を知る上で大変重要な古墳である。これまで当調査事務所年報では、石室内から出土した鉄製品を中心に紹介してきたが、今回は円筒埴輪の特徴を検討し、この古墳の新たな一面を明らかにできたと思う。

今後、藤の森古墳の出土資料にさらなる検討、研究が加えられ、活用されていくことを願います。

(藤田道子)

【註】

1)『藤の森・蕃上山二古墳の調査』1965 大阪府
水道部

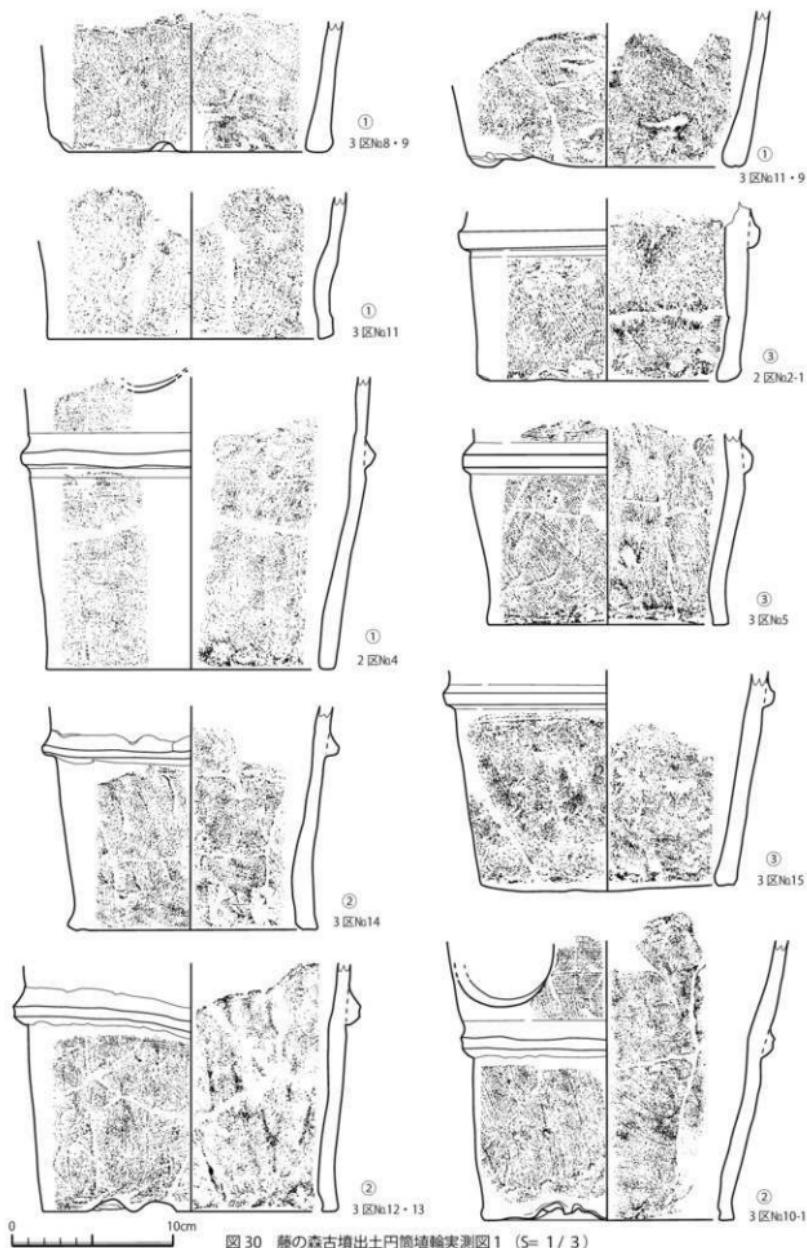


図30 藤の森古墳出土円筒埴輪実測図1 (S= 1 / 3)

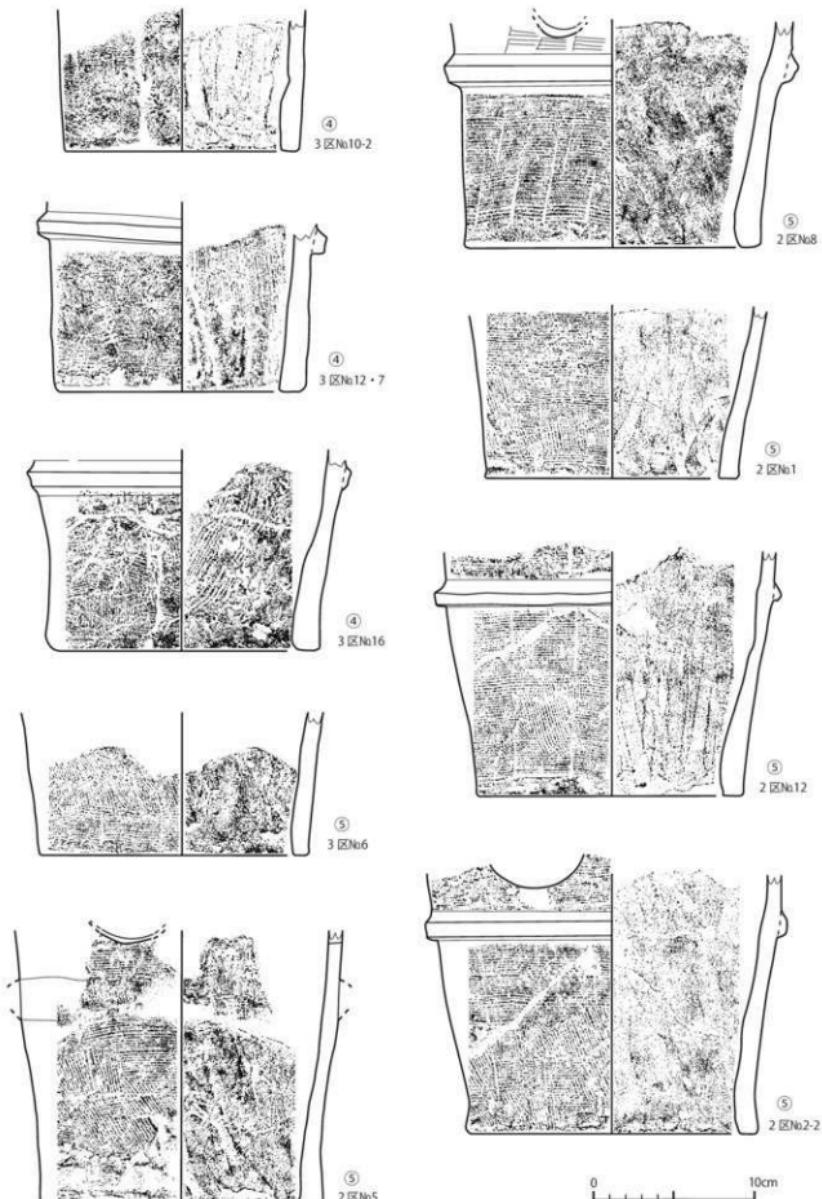


図31 藤の森古墳出土円筒埴輪実測図2 (S= 1 / 3)



① 2区No.4



④ 3区No.12+7



② 3区No.12+13



⑤ 2区No.2-2



③ 2区No.2-1

図32 藤の森古墳の円筒埴輪①～⑤グループの代表例

表4 藤の森古墳出土円筒埴輪観察表1

| 分類 | 地区 | 注記番 | 法量(単位はcm) | 底部分径 厚み | 残存高 底部高 | 残存状況 | 底部の状況 | 外面調整 | 内面調整 | 色調 | 焼成 胎土 | 透孔の形状と数 備考 |
|----|----|---------------|-----------|------------|----------------|---|---|--|---|---|----------------------------------|----------------------------------|
| | | | | | | | | | | 外画 | | |
| | | | | | | | | | | 内面 | | |
| ① | 3 | 8 • 9 | 18×16.5 | 9.6 | 一段目途中まで | 底部分は極めていびつにゆがむ、太い管状のものによる圧痕が3ヶ所以上 | 10条/1cmのタテハケ | 10条/1cmのタテハケ 底部分際はほぼヨコ方向の工具ナデ | 10条/1cmのタテハケ 底部分際はヨコ方向の工具ナデ | 明黄褐色 10YR6/6 明黄褐色 10YR6/6 にぶい 黄褐色 10YR6/4 | 良 密 | 不明 底端部は不整形で内面に膨らみ亀裂が入る部分がある。 |
| | | | 1.9-0.8 | — | | | | | | | | |
| ① | 3 | 11 | 17.5×17 | 9.1 | 一段目途中まで | ほぼ円形、底端部の厚みも均質 | 10条/1cmのタテハケ | 10条/1cmのタテハケ | 10条/1cmのタテハケ | 橙色 7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/8 にぶい 黄色 2.5Y6/4 | やや不 良 密 | 不明 底端部にわずかに黒斑がみられる。 |
| | | | 1.0-0.7 | — | | | | | | | | |
| ① | 3 | 9 • 11 | 17×16 | 9.7 | 一段目途中まで | 底部分1/5欠損、底部分はいびつにゆがむが太く管状のものによる圧痕が3ヶ所以上 | 10条/1cmのタテハケ 外側端部際は工具による圧痕 | 10条/1cmのタテハケ 底部分際はヨコ方向の工具ナデ | 10条/1cmのタテハケ 底部分際はヨコ方向の工具ナデ | 明黄褐色 10YR6/6 明黄褐色 10YR6/6 にぶい 黄褐色 10YR7/2 | やや不 良 密 | 不明 外側にはほぼ1/2に黒斑がみられる。 |
| | | | 1.5-0.8 | — | | | | | | | | |
| ① | 2 | 4 | 18×17 | 17.9 | 二段目円形透かし下部まで | ほぼ円形、底端部の厚みもほぼ均質、長さ2-3cmのくぼみが2ヶ所 | 10条/1cmのタテハケ 上部2/3はタテハケの上から同じ工具でヨコハケ、静止痕明顯に残る | 10条/1cmのタテハケ | 10条/1cmのタテハケ | 明黄褐色 10YR6/6 明黄褐色 10YR6/6 にぶい 黄褐色 10YR7/3 | 良 密 | 円形1ヶ所 |
| | | | 12-0.6 | 13.3 | | | | | | | | |
| ② | 3 | 12 • 13 | 17.5×16 | 15.2 | 二段目タガ上部まで | 底部分は極めていびつにゆがむ、太い管状のものその他のによる圧痕が多数 | 8条/1cmのナナメ、タテハケ(条痕が残らず工具の幅のみの箇所が多い) | タテ方向ナデ 器面に凹凸が残る | タテ方向ナデ 器面に凹凸が残る | 橙色 7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/8 にぶい 黄褐色 10YR7/4 | 良 密 | 不明 タガが体部に密着していない、高さが不揃い |
| | | | 2.0-0.8 | 12.6-11.2 | | | | | | | | |
| ② | 3 | 14 | 15.5×15 | 13.8 | 一部二段目円形透かし下部まで | 底部分1/5欠損、底部分はややゆがむ、織耕状圧痕があるが大きくなればみはない。 | 8条/1cmのナナメ、タテハケ(ほとんどの箇所が残らず工具の幅のみの箇所が多い) | タテ・ナナメ方向ナデ 幅3-4cmの範囲で凹凸が残る。底部はややくぼみがある。底部はオサエがヨコ方向に並ぶ | タテ・ナナメ方向ナデ 幅3-4cmの範囲で凹凸が残る。底部はややくぼみがある。底部はオサエがヨコ方向に並ぶ | 橙色 7.5YR7/6 にぶい 黄褐色 10YR6/4 にぶい 黄色 2.5Y6/3 | やや不 良 密、径3mmまでの白砂粒を含む | 円形1ヶ所 タガの下部が体部に密着していない、高さが不揃い |
| | | | 1.3-0.7 | 11.4-10.5 | | | | | | | | |
| ② | 3 | 10-1 | 15.5 | 17.2 | 二段目円形透かし中央まで | 底部はややゆがむ。底端部の厚みは不均質で、太い管状のものによる圧痕3ヶ所 | 一段目8条/1cmのナナメ、タテハケ(条痕が残らず工具の幅のみの箇所が多い) 二段目8条/1cmのタテハケの後ヨコハケ、静止痕が残る | タテ・ナナメ方向ナデ 全面に施されている。底部はヨコ方向ナデ | にぶい 橙色 7.5YR6/4 橙色 7.5YR6/6 灰黄褐色 10YR6/2 | 良 密、径1mmまでの白色砂粒を含む | 円形1ヶ所 タガの下部が体部に密着していない、高さが不揃い | |
| | | | 1.0-0.8 | 11.2 | | | | | | | | |
| ③ | 2 | 2-1 | 16.6×15.8 | 11.1 | 二段目タガ直上まで | 底部分1/6欠損、底部分はややゆがみ、横円形を有する。織耕状圧痕があるが大きくなればみはない。 | 5-6条/1cmのナナメ、タテハケ。底部分際は、オサエ、ナデ | タテ・ナナメ方向ナデ 幅4-6cmの範囲で凹凸が残る | 橙色 7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 にぶい 黄色 2.5Y6/3 | 良 やや密、 1mm、 最大径4-5mmの砂粒を含む | 不明 | |
| | | | 3.0-1.1 | 9.4 | | | | | | | | |
| ③ | 3 | 15 | 16×15 | 14.3 | 二段目タガ直上まで | 底部分1/5欠損、底部分はややゆがみ、横円形を有する。織耕状圧痕があるが大きくなればみはない。 | 5-6条/1cmのナナメ、タテハケ。 | タテ・ナナメ方向ナデ 全面に施されている。底部はヨコ方向ナデ | 明褐色 7.5YR5/6 にぶい 褐色 7.5YR5/4 にぶい 褐色 7.5YR7/4 | やや不 良 密、径1mmまでの白色砂粒を含む | 不明 | |
| | | | 1.5-1.1 | 12.2 | | | | | | | | |
| ③ | 3 | 3 • 5 | (推)15 | 10.2 | 二段目タガ直上まで | 底部1/2欠損、底部分はややゆがみ、凹凸はない。 | 5-6条/1cmのナナメ、タテハケ。 | タテ・ナナメ方向ナデ 全面に施されている。底部はヨコ方向ナデ | 橙色 7.5YR6/6 明褐色 7.5YR5/6 浅黄色 2.5Y7/3 | 良 直前、 底部分 に白砂 粒を多く含む | 円形1ヶ所 | |
| | | | 1.0-0.7 | 10.5 | | | | | | | | |

表4 藤の森古墳出土円筒埴輪観察表2

| 分類 | 地区 | 注記番 | 法量(単位はcm) | 残存状況 | 底部の状況 | 外面調整 | 内面調整 | 色調 | 焼成 | 透孔の形状と数 | |
|----|----|------|-------------------|----------|--------------------------|--|---|--|--|---|-------------------------------------|
| | | | | | | | | 外表面 | | | |
| | | | | | | | | 内面 | | | |
| | | | | | | | | 断面 | 胎土 | | |
| ④ | 3 | 12・7 | (推)15.6 | 10.2 | 二段目 タガ直上まで | 底部 1/2 欠損、底 径はゆがみ横円形 を呈す。織部状の 圧痕、くぼみが残 る。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上からヨコハ ケ、2-4cm の間隔 で静止痕あり | 上部は 5-6 条 /1 cm のタテハ ケ、底部際はタテハ ケナデ | 明赤褐色 5YR5/6 にぶい 黄色 2.5Y6/3 赤褐色 5YR4/6 | 良 密: 径 2 mm 前後 の白・灰 色粒を多 く含む | 不明 |
| | | | 1.5-1.0 | 9.4 | | | | | | | |
| ④ | 3 | 16 | 16.8 × 15.8 | 12.3 | 二段目 タガの 直上ま で | 底部はゆがみ、横 円形を呈す。凹凸 はほとんどなく 平ら。織部状の指 ササギ以外はくぼ みはない。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上からヨコハ ケ、わずかに静止 痕がみられる箇所 もあり、ハケの方 向は不揃い | 5-6 条 /1cm のタ テハケ、ハケの方 向などは整然として ない。底部際はユ ビオササギ | 明赤褐色 5YR5/6 にぶい 褐色 7.5YR6/3 橙色 5YR6/6 | 良 やや密: 径 8 mm 前後 の白・灰 色粒を多 く含む | 不明 |
| | | | 2.0-0.9 | 11 | | | | | | | |
| ④ | 3 | 10-2 | (推)15.2 × 14.7 | 8.9 | 一段目 タガな し | 底部 2/5 欠損、底 部はゆがみ横円形 を呈す。わら状の 圧痕はあるが、大 きなくぼみはな い。 | 5-6 条 /1cm のヨコ ハケ、静止痕あり。 底部際は若いナ メ方向ナデ | タテ方向ナ デ 7.5YR7/6 にぶい 褐色 7.5YR7/3 にぶい 黄褐色 10YR6/4 | やや不 良 やや密: 径 1 mm 前後 の白・灰 色粒を含 む | 不明 | |
| | | | 2.0-1.0 | — | | | | | | | |
| ⑤ | 2 | 1 | 17 × 15.2 | 10.6 | 一段目 タガな し | 底部はややゆが み、横円形を呈 す。わら状の圧痕、 2-3cm のくぼみが ある。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上からヨコハ ケ、4cm 前後で静 止痕がみられる | ナメ方向 ナデ 7.5YR6/6 にぶい 褐色 7.5YR5/4 にぶい 褐色 7.5YR5/4 | やや不 良 密: 径 1 mm 未満 の白色 粒を含 む | 不明 | |
| | | | 1.2-0.8 | — | | | | | | | |
| ⑤ | 2 | 5 | (推)17.3 | 17 | 二段目 円形透 かし下 部まで | 底部 1/5 欠損、底 部はほぼ正円、細 い管状、わら状の 圧痕あり。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上からヨコハ ケ、静止痕がわざ かにみられる | タテ・ナナ メ方向ナデ 7.5YR7/4 7.5YR7/6 7.5YR7/6 7.5YR7/6 | にぶい 褐色 7.5YR6/8 にぶい 褐色 10YR6/4 灰色 5Y6/1 | 不良 密: 径 1 mm 未満 の白色 粒を含 む | 円形 1ヶ所 タガは剥離して おり、痕跡のみ 残る。 |
| | | | 1.5-0.8 | (推) 13.5 | | | | | | | |
| ⑤ | 3 | 6 | 17 | 8.8 | 一段目 タガな し | 底部 1/4 欠損、底 部はややゆがむ円 形を呈し、細い管 状、わら状の圧痕 がある。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上からヨコハ ケ、3-4cm 間隔で 静止痕がみられる | タテ・ナナ メ方向ナデ 7.5YR6/8 にぶい 褐色 10YR6/4 灰色 5Y6/1 | 不良 密: 径 1 mm 未満 の白色 粒を含 む | 不明 | |
| | | | 1.1-0.9 | — | | | | | | | |
| ⑤ | 2 | 2 | 17.8 | 16 | 二段目 円形透 かし下 部まで | 底部 1/5 欠損、底 部はほぼ正円、細 い管状、わら状の 圧痕があり、大き なくぼみはない。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上から 1 段でヨ コハケ、3-4cm 間 隔で静止痕がみら れる | ナメ方向 ナデ 7.5YR6/4 にぶい 褐色 7.5YR6/3 にぶい 褐色 7.5YR6/4 | 良 密: 径 1 mm 未満 の白色 粒を含 む | 円形 2ヶ所 | |
| | | | 1.3-0.9 | 13.1 | | | | | | | |
| ⑤ | 2 | 8 | 18.1 × 18 | 13.9 | 二段目 円形透 かし下 部まで | 底部はほぼ正円、 圧痕は全くない。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上から上下 2段にヨコハケ、 3.4-1.5cm 間隔で 静止痕がみられる | ナメ方向 ナデ 7.5YR6/6 7.5YR6/6 にぶい 褐色 10YR7/4 | 良好 密: 径 12 mm の赤い 小石粒、 径 3mm ま での白・灰 色粒を含 む | 円形 2ヶ所 | |
| | | | 1.7-1.1 | 11.1 | | | | | | | |
| ⑤ | 2 | 12 | 17.5 × 16.5 | 15 | 二段目 タガ直 上まで | 底部 1/4 欠損、底 部はややゆがみ、 横円形を呈す。細 い管状、わら状の 圧痕、2-3cm のく ぼみがある。 | 5-6 条 /1cm のナ メ、タテハケ、そ の上から 1 段でヨ コハケ、3-4cm 間 隔で静止痕がみら れる | ナメ方向 ナデ 7.5YR6/6 にぶい 褐色 7.5YR5/4 浅黄色 2.5Y7/3 | やや不 良 密: 径 1 mm 未満 の白色 粒を含 む | 不明 | |
| | | | 1.5-0.6 | 12.4 | | | | | | | |

藤の森古墳出土の甲冑

1.はじめに

本資料紹介は、昭和40年に発掘調査を実施した藤の森古墳に副葬された武具についてである。調査の経緯や成果等については、本紙藤田の報告にて説明されているので割愛する。

調査時の武具に関する所見では、横穴式石室内は盜掘されており、床面から上部にかけて「短甲片がかなり検出された」と記述されている。

現在本課が保管する藤の森古墳出土の武具は、管見では大半が肩甲片で、他にも頸甲片、少量の革綴短甲片が認められる。細片化しており、武具1領を構成するには明らかに満たず、大部分が盜掘の被害を受けているとみられる。背の破片は認められない。また、鉄鋤で留められた甲冑片も認められない。

このような藤の森古墳出土の武具であるが、今回はこれらのうち、平成30年度と令和元年度に保存処理を行った甲片9点に的を絞って紹介する。

2. 頸甲（図33-1・2）

1は外縁が遺存しない本体板¹⁾で、残存する肩部幅は最大5.3cm、厚さは1.5～2.0mmである。穿孔は認められない。襟部は欠失しており、襟高は最も残存する箇所で0.45cm、厚さは1.0～1.5mmである。襟上段部があったかは不明。2も外縁が遺存しない本体板で、残存する肩部幅は最大5.5cm、厚さは2.0mmである。襟部は欠損しており、襟高は最も残存する箇所で0.3cm、厚さは1.0～1.5mm。こちらも穿孔は認められない。1・2は接点をもたないため、同一個体かは不明である。

2点ともに破片であるが、襟部周辺の形状や穿孔がされないことから、概ね前側の部位と推測する。

3. 肩甲（図33-3～9）

今回報告する3～9や他の破片資料も含め、全て鉄製打延式の肩甲である。欠失部分が多く、現状では全長を復元できる資料は無い。幅は3.0～3.3cm、厚さ1.5～2.0mmとまとまった単位で終始する。鍼孔は4孔1組で穿孔されており、直径は3.0～3.5mmを測る。心々間の距離は5.0～7.0mmであるが、2孔目と3孔目は8.0～9.0mmと広くなるのが特徴である。

4. 予察

今回報告に至らなかった破片資料も含め、肩甲は

比較的多く残存する。これら大半は部材ごとに出土したようで、肩甲どうしが重なって錆着している個体はほぼ認められない。武具の副葬後、早い段階で鍼紐が腐朽し、部材ごとに分離したと考えられる。

本古墳に副葬されていた武具の組成については、盗掘で痕跡を残さず完全に持ち去れていなければ、革綴短甲と頸甲、肩甲の組成だったと考えられる。短甲片をみると、おそらく短甲は三角板革綴短甲とみられる。頸甲は欠失のため革綴か鎖留技法どちらを採用していたかは不明である。また、副葬された領数も現状不明であるが、残存破片からして複数領の副葬があったことを支持するには至らない。

5. おわりに

少しだが藤の森古墳出土武具の報告を行うことができた。今回は保存処理を実施済みの資料紹介に限定したが、今後も継続的に報告を行うこととした。

余談であるが、同じく府内の初期横穴式石室を有する堺市西区所在の塔塚古墳の出土資料等の報告がなされた（浜中他 2020）。これにより、本課が断続的に行っている藤の森古墳の出土資料（三木 2017・藤田 2019）との比較検討が可能となった。府内における初期横穴式石室の様相が今後より一層明らかになることを祈念する。（藤井陽輔）

【註】

1) 部位名称は杉井他 2012 に準拠した。

【参考・引用文献】

杉井 健・上野祥史編 2012 「マロ塚古墳出土品を中心とした古墳時代中期武器武具の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第173集 国立歴史民俗博物館

浜中邦弘・辻川哲朗・春日宇光・三浦悠葵・奥田尚 2020 「和泉・塔塚古墳出土遺物報告（1）—同志社大学歴史資料館所蔵品を中心として—」『同志社大学歴史資料館報』第22号 同志社大学歴史資料館

藤田道子 2019 「藤の森古墳から出土した鉄製品」『大阪府教育府文化財調査事務所年報23』大阪府教育委員会

三木 弘 2017 「藤の森古墳に副葬された鉄鋤」『大阪府教育府文化財調査事務所年報21』大阪府教育委員会

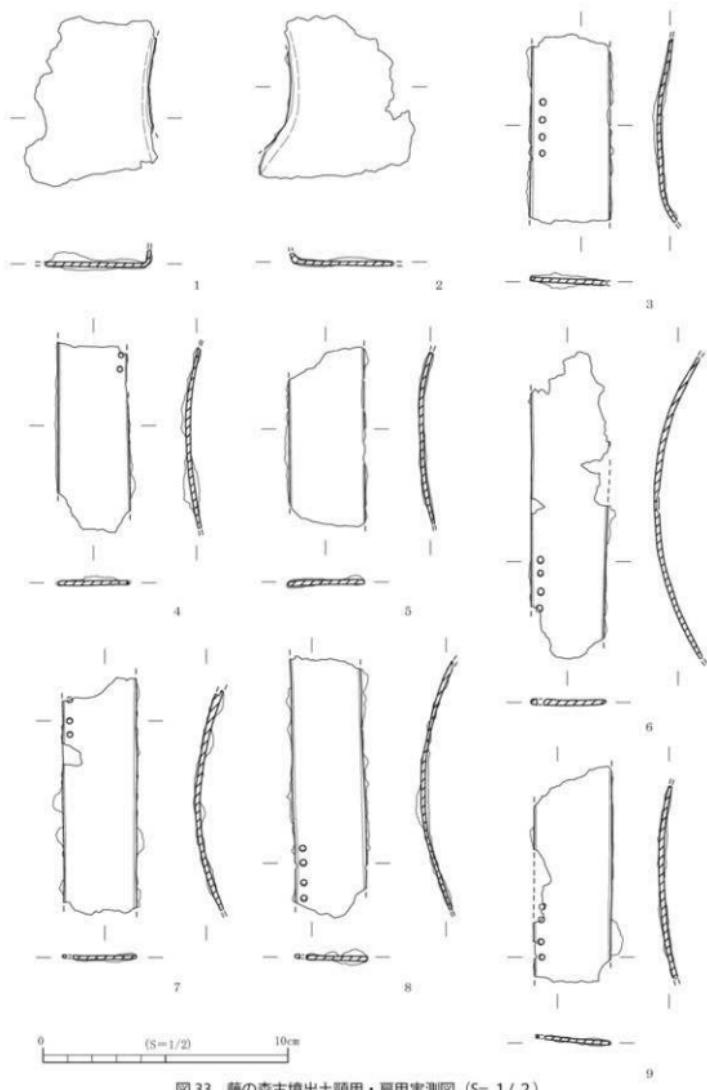


図33 藤の森古墳出土頭甲・肩甲実測図 (S= 1 / 2)

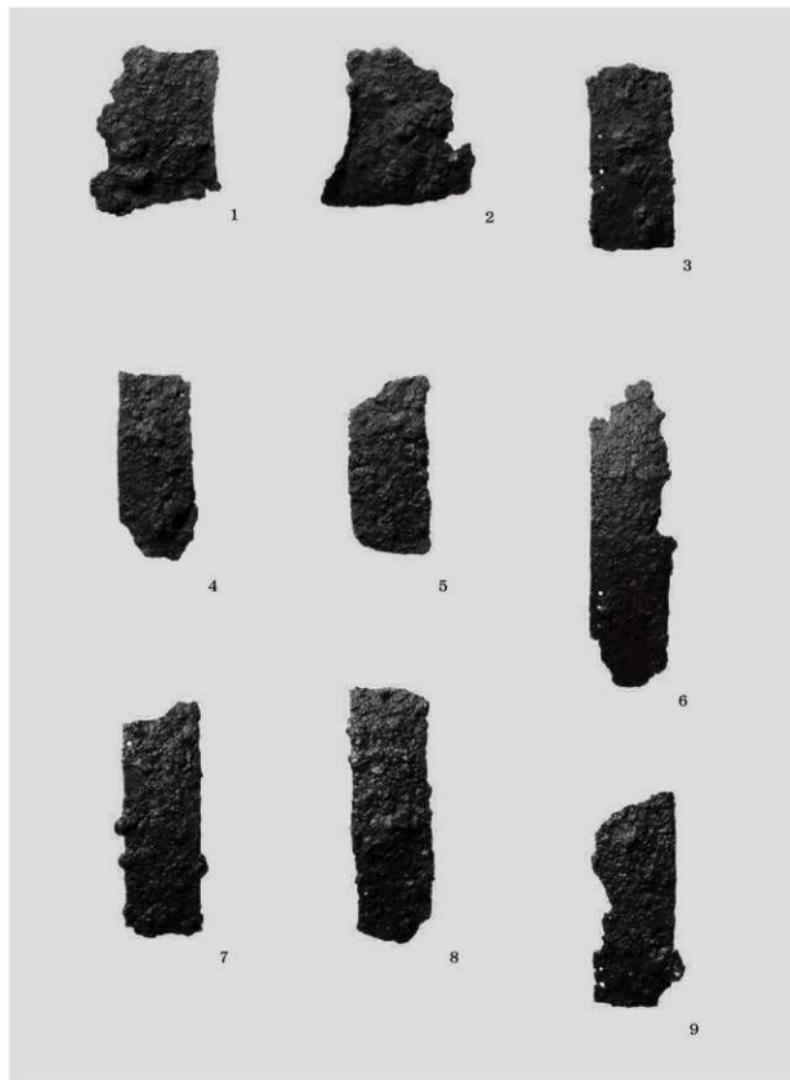


図34 藤の森古墳出土頭甲・肩甲写真

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業

■研修事業

大学生（1名）のインターンシップは、9月に2週間にわたり実施した。調査事務所内で文化財保護についての講義と、整理作業及び展示作業の実習を行った。また、和泉池上文化財収蔵庫での資料整理作業実習及び、中野北遺跡での発掘調査実習も行った。

中学生の職場体験学習は堺市南区内の1校、3名を受け入れた。出土遺物の整理作業（水洗、拓本）など、調査事務所で行っている各種業務の体験学習を行った。

国際協力機構（JICA）の海外研修生3名（アルメニア1名、エジプト1名、ザンビア1名）に対して、「考古資料の発掘と保存管理」について、埋蔵文化財の発掘調査と保存管理を中心に、現状の説明と現場作業の見学及び博物館の施設見学などを行った。

例年高校生のインターンシップも受け入れているが、希望者がいなかったため実施しなかった。

■発掘調査等の現地公開

大阪府東住吉警察署改築工事に伴う発掘調査では、関係者や東住吉小学校の教師及び生徒たちに向けて現地公開を実施した。府営住宅内の道路新設工事整備事業に伴って、岸和田市大町遺跡の発掘調査を実施し、古墳時代の竪穴住居跡等が発見された。地元対象の現地公開を開催し 100人の見学者が参加した。

また、近鉄長野線単独立交差に伴う富田林市中野北遺跡の発掘調査は、調査地が線路に近接しているため現地公開が実施できなかった。このため、調査終了後に富田林市立中央公民館にて、富田林市教育委員会と共催で「中野北遺跡発掘調査の速報展－粟ヶ池周辺の遺跡－」を開催した。

■文化財収蔵庫の特別公開

府立弥生文化博物館に隣接する、和泉池上文化財収蔵庫の特別公開を毎年開催している。収蔵している府内各遺跡から出土した古墳時代の準構造船の部材及び、旧石器、縄文土器、弥生土器、須恵器、瓦などを展示し、須恵器の復元、粘土板に埴輪のハケメをつける実験などを実施した。

特別公開は4日間実施する予定であったが、3・4回目は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、中止した。2回の実施で156人の参加があった。

■出かける博物館事業（展示・関連講演等）

府立狭山池博物館と河内長野市立ふるさと歴史学

習館で、府教育庁と大阪狭山市教育委員会及び河内長野市教育委員会・府立狭山池博物館との共催で、「南大阪の発掘成果」展を開催した。この展示会では、和泉市府中遺跡出土の土器を展示了。

また（公財）大阪府文化財センター、府立弥生文化博物館、府立近つ飛鳥博物館、府立狭山池博物館との共催で、府立狭山池博物館で「古代の装身具—古鏡の世界ー」展を開催し、各機関が所蔵する古鏡を展示了。それぞれの展示会に伴う講演会も開催した。

府立弥生文化博物館の弥生プラザコーナーの展示として、2回の展示を行った。第1回は、「やつてきた人・持ってきた土器！？—萱振遺跡の井戸 SEO3—」のテーマで、八尾市萱振遺跡の井戸から出土した、他地域からもたらされた土器を展示了。

第2回は、「古墳時代の池上曾根遺跡」のテーマで、和泉市池上曾根遺跡から出土した古墳時代の土器を展示了。

ドーンセンター4階の展示コーナーで「大阪城発見の茶器」のテーマで、大阪城三の丸跡から出土した茶器を展示了。また、教育センターにおいて、「錢塚出土の埴輪」のテーマで堺市錢塚古墳出土の埴輪を展示了。

■出かける博物館事業（講演・遺跡案内、イベント応援等）

各種の機関・団体等から依頼を受けて、年間9回の講演会とイベントなどに職員を派遣した。

■ホームページでの調査成果公開

発掘調査については、4遺跡の調査成果と大町遺跡の現地公開資料を公開した。

また、文化財保護課が所蔵するガラス乾板等の資料を「古い写真から 古墳編」として8古墳の写真を公開した。

■文化財調査事務所への学校等からの施設見学

小谷城資料館で受け入れている博物館実習生などが、出土遺物と施設の見学のため来館した。

■出前授業（府市連携事業）

府教育庁と大阪狭山市教育委員会の間で、文化財普及・活用の連携事業を4回実施した。

大阪狭山市立第七小学校と西小学校及び、東小学校において、それぞれ6年生を対象とした出前授業を開催した。また、UPっぷ（子育て支援・世代間交流センター）で実施された「冬休みこども歴史塾」講師を派遣した。



図35 大学生インターンシップ



図39 大町遺跡現地公開



図36 JICA研修



図40 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開



図37 中学生職場体験学習



図41 大阪狭山市立東小学校6年生の出前授業



図38 大阪府立狭山池博物館「古代の装身具」展
関連講演会



図42 大阪府立弥生文化博物館・弥生プラザ
「古墳時代の池上曾根遺跡」

表5 令和元（平成31）年度文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧（1）

| 事業 | 事業名 | 実施年月日 | 実施場所 | 内容 | 対象者 | 備考 |
|-----------------------|---|----------------------|-------------------------|---|--------------------|---|
| 研修 | インターンシップ（大学生） | 令和元年9月2日～6日、9月13～13日 | 調査事務所ほか | 文化財調査事務所の業務実習 | 大阪府立大学希望者 | 府事業 |
| | 国際協力機構（JICA）研修 | 令和元年11月11日～11月15日 | 調査事務所ほか | 「考古資料の発掘と保存管理」について府内施設・施設にて研修を行った | アルメリア・エジプト・サンピア計3名 | |
| | 職場体験学習（中学生） | 令和2年2月6、7日 | 調査事務所 | 文化財調査事務所の業務体験 | 堺市立福泉南中学校希望者 | |
| 環境・資源・公開 | 東田辺遺跡の現地公開 | 令和元年10月11日 | 東田辺遺跡現地 | 大阪府東住吉警察署改築工事に伴う調査内容の公開 | 関係者 東住吉小学校 | |
| | 大町遺跡の現地公開 | 令和元年12月21日 | 大町遺跡現地 | 府留岸田町大町住道跡新工事に伴う調査内容の公開 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| | 「中野北遺跡発掘調査の進捗～要ヶ谷周辺の遺跡～」 | 令和2年2月5日～令和2年2月9日 | 富田林市立中央公民館 | 令和元年度中野北遺跡の発掘調査成果等を公開 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| 出かける博物事業 （展示会等） | 「大阪城跡見足の茶器」 | 平成31年1月1日～令和2年3月31日 | 大阪府立ドーンセンター 4階展示コーナー | 大阪城三の丸跡出土の茶器を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| | 「践塚古墳出土の埴輪」 | 平成31年4月24日～令和2年3月31日 | 大阪府教育センター | 践塚古墳出土の埴輪を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| | 「秀生プラザ展示「やってきた人、持ってきた土器！～普段置きの戸井SE03～」展 | 令和元年5月9日～11月8日 | 府立秀生文化博物館 | 普段置き戸井SE03－掲出土の土器を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| 出かける博物事業 （展示会等） | 府立桃山博物館展示「曲大阪の発掘成果」展 | 令和元年5月22日～6月16日 | 府立桃山博物館 | 「府中遺跡」出土の土器と「高向遺跡・小堀遺跡・喜多町遺跡」出土埴輪及び大阪桃山市所蔵「上野コレクション」を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 （5/15）読売朝刊（5/30） |
| | 河内長野市立ふるさと歴史学習館展示「南大阪の発掘成果」展 | 令和元年6月18日～7月31日 | 河内長野市立ふるさと歴史学習館 | 「高向遺跡」出土の土器と「高向遺跡・小堀遺跡・喜多町遺跡」出土埴輪、大阪桃山市所蔵「上野コレクション」および、府立桃山博物館所蔵の「重藤桃山改修碑」（レプリカ）を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| | 秀生プラザ展示「古墳時代の道上鉢置遺跡」展 | 令和元年11月9日～令和2年4月24日 | 府立秀生文化博物館 | 和泉市上野鉢置出土の土器を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| 出かける博物事業 （特別公開） | 第一回和泉池上文化財収蔵庫特別公開 | 令和元年11月16日 | 和泉池上文化財収蔵庫 | 府立秀生文化博物館の無料開館日に合わせて、古市古墳群の大工殿の古墳から出土した埴輪を中心に、府内の各遺跡から出土した出土埴輪を公開展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| | 第二回和泉池上文化財収蔵庫特別公開 | 令和元年12月7日 | 和泉池上文化財収蔵庫 | 府立秀生文化博物館で開催する「2019年度秀生時代講座」に合わせて、八尾市貴賀遺跡から出土した出土埴輪を中心に、府内の各遺跡から出土した出土埴輪を公開展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| | 府立桃山博物館ミニ展示「古代の装身具一古鏡の世界～」展 | 令和2年1月22日～3月8日 | 府立桃山博物館 | （公認）大阪府文化センター・府立秀生文化博物館・府立近・飛鳥博物館・府立桃山博物館との共催で、各機関所蔵の古鏡を展示 | 一般 | 文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 |
| 文化財調査事務所 | 第三、四回和泉池上文化財収蔵庫特別公開 | 令和2年3月21日、22日 | 和泉池上文化財収蔵庫 | 府立秀生文化博物館で開催する「秀生フェスティバル」に合わせて、府内の各遺跡から出土した出土埴輪・瓦類を公開展示 | 一般 | コロナウイルス感染拡大防止のため中止 |
| | 「河内の初期秀生集落～八尾山中道跡～」 | 平成31年4月1日～9月12日 | 文化財調査事務所 | 八尾市田中遺跡の秀生時代前期前半の集落跡から発見された土器等を展示 | 一般 | |
| | 「方形周溝墓に供えた土器～和泉の古中道～」 | 平成31年4月1日～令和2年3月31日 | 文化財調査事務所 | 和泉市中道跡の第3号方形周溝墓出土供土器等を展示 | 一般 | |
| 出かける博物事業 （講演・講習会等） | 「和泉市所在の中道跡」 | 令和元年9月12日～令和2年3月31日 | 文化財調査事務所 | 和泉市中道跡の出土の黒色土器と瓦類等を展示 | 一般 | |
| | 府立櫻の木高等学校 | 令和元年6月13日 | 府立櫻の木高等学校 | 高校校内に散在する高槻城の石垣を対象に、柘植の取り方および整理の仕方を指導 | 関係者 | 同校地歴部員を対象 |
| | アクロス歴史文化カレッジ | 令和元年5月25日 | 大東市立生涯学習センター アクロス | 「古代大阪の環境・水城・川・道」 | 一般 | |
| 出かける博物事業 （講演・講習会等） | アクロス歴史文化カレッジ | 令和元年6月22日 | 大東市立生涯学習センター アクロス | 「難波宮研究の到達点」 | 一般 | |
| | アクロス歴史文化カレッジ | 令和元年8月11日 | 大東市立生涯学習センター アクロス | 「大和川の大洪水と河内」 | 一般 | |
| | 「南大阪の発掘成果」展の開講講演会 | 令和元年6月8日 | 府立桃山博物館 | 「飛鳥・奈良時代の難波郡」 | 一般 | 河内長野市教育委員会職員が講演 |
| 出かける博物事業 （講演・講習会等） | 「南大阪の発掘成果」展の開講講演会 | 令和元年7月14日 | 河内長野市ふるさと歴史学習館 | 「古代の高向坂」 | 一般 | |
| | 府立桃山博物館ミニ展示「古代の装身具一古鏡の世界～」展の開講講演会 | 令和2年2月16日 | 府立桃山博物館 | 「古代の装身具一古鏡の世界」 | 一般 | 府立桃山博物館の職員が講演 |
| | 堺白鳥の泉大学 | 令和元年7月4日 | 堺市立男女共同参画センター | 「百舌鳥・吉市古墳群出土の武器・武具」 | 一般 | |
| 出かける博物事業 （講演・講習会等） | 堺白鳥の泉大学 | 令和元年11月7日 | 堺市立男女共同参画センター | 「朝と古道」 | 一般 | |

表5 令和元（平成31）年度文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧（2）

| 事業 | 事業名 | 実施年月日 | 実施場所 | 内容 | 対象 | 備考 |
|---|---------------|----------------|-----------------------|---|---------------|---------------------------|
| その他の 施設等 と 連携等 | 朝日カルチャーセンター | 令和元年6月27日 | 府立弥生文化博物館 | 遺物と施設の見学 | 関係者 | 講座「ミュージアムを10倍楽しむ方法」参加者を対象 |
| | 小谷展示資料館 | 令和元年8月22日 | 文化財調査事務所 | 施設の見学 | 関係者 | 同組受け入れの博物館実習生が見学 |
| | すえむら湯池の窯跡を守る会 | 令和元年11月22日 | 府立弥生文化博物館 | 遺物と施設の見学 | 関係者 | |
| 主 題 開 拓 と 古 墳 の 調 査 と 公 開 | 上野内遺跡 | 平成31年4月12日から公開 | 埋蔵文化財情報 発掘調査情報 | 古墳の遺跡改良工事に伴う発掘調査で、古墳の周溝とみられる溝(古墳時代中期中頃)、一般井戸(室町時代)が見つかった。 | 一般 | |
| | 東田道遺跡 | 令和元年12月27日から公開 | 埋蔵文化財情報 発掘調査情報 | 東住吉警察署改築工事に伴う発掘調査で、古墳時代の溝や柱穴等の生活域を見発見した。 | 一般 | |
| 文 化 財 保 護 と 主 題 開 拓 と 古 墳 の 調 査 と 公 開 | 大町遺跡 | 令和2年3月25日から公開 | 埋蔵文化財情報 発掘調査情報 | 府道往宅の往宅内道路整備に伴う調査で、弥生時代中期から古墳時代初期、平安、室町時代の遺物が出土した。また、古墳時代中期(岡山の所)建物4軒、掘立柱建物2棟が見つかり、近接する山體羽遺跡の古墳群との関係が示唆される。 | 一般 | |
| | 忍岡古墳の調査 | 令和元年11月5日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する昭和10年に撮影された忍岡古墳の現穴式石室の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 牧野車塚古墳 | 令和元年11月11日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する昭和20年度以前に撮影された牧野車塚古墳の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 御勝山古墳 | 令和元年11月11日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する昭和7年度以前、昭和12年以前に撮影されたとみられる御勝山古墳の遺景の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 西光寺山古墳の調査 | 令和元年11月11日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する昭和25年以前に撮影されたとみられる西光寺山古墳の石棺と出土遺物等の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 帝塚山古墳 | 令和2年1月21日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する昭和12年に撮影された帝塚山古墳の遺景の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 河内大塚山古墳 | 令和2年1月21日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する昭和12年以前に撮影された河内大塚山古墳の遺景の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 海北塚古墳 | 令和2年1月21日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する海北塚古墳の石室の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 松井塚古墳 | 令和2年1月21日から公開 | 埋蔵文化財情報 古い写真から 古墳編 | 本課が保管する松井塚古墳の構造式石室の写真をホームページ上で公開。 | 一般 | |
| | 社会科出前授業 | 平成31年4月25日 | 大阪狭山市立西小学校 | 「大昔のくらし」構造式から古墳時代の歴史(発掘調査成果の活用等) | 小学6年生2クラス | 大阪府教育庁と大阪狭山市教育委員会の連携事業 |
| 出 前 授 業 | 社会科出前授業 | 令和元年5月24日 | 大阪狭山市立第七小学校 | 「大昔のくらし」構造式から古墳時代の歴史(発掘調査成果の活用等) | 小学6年生3クラス | 大阪府教育庁と大阪狭山市教育委員会の連携事業 |
| | 社会科出前授業 | 令和元年9月10日 | 大阪狭山市立東小学校 | 「歴史の歴史における狭山藩陣屋」(発掘調査成果の活用等) | 小学6年生4クラス | 大阪府教育庁と大阪狭山市教育委員会の連携事業 |
| | 冬休みこども歴史塾 | 令和元年12月26日 | UPつぶ(子育て支援・世代間交流センター) | 「考古学からみた災害と防災」 | 小学校高学年(4~6年生) | 大阪府教育庁と大阪狭山市教育委員会の連携事業 |

令和元（平成 31）年度収蔵資料

| | | |
|-----------------------|----------|---------------------------|
| ■収蔵資料 | | |
| ■埋蔵文化財（各収蔵庫・整理箱数） | | |
| (1) 北部収蔵庫（摂津市鳥飼中） | 2,815 箱 | (3) 守田コレクション 200 点 |
| (2) 東大阪収蔵庫（東大阪市長田東） | 40,764 箱 | (4) 上平家資料 150 点 |
| (3) 泉北収蔵庫（高石市綾園） | 36,538 箱 | (5) 畠野家資料 68 点 |
| (4) 文化財調査事務所（堺市南区竹城台） | 4,724 箱 | (6) 三宅家資料 一括 |
| (5) 泉佐野収蔵庫（泉佐野市日根野） | 45,379 箱 | (7) 大恩寺資料 一括 |
| (6) 近つ飛鳥博物館（河南町大字東山） | 7,762 箱 | (8) 前世家資料 22 件 |
| (7) 和泉池上収蔵庫（和泉市池上町） | 36,979 箱 | ■美術工芸品 |
| (8) 岸和田収蔵庫（岸和田市磯ノ上町） | 18,368 箱 | (1) 田中家文書一括 5 箱 4,100 点 |
| ■民俗文化財 | | (2) 「府立大阪博物場」資料 |
| (1) 谷口家資料 | 221 点 | ・旧蔵美術工芸品（大阪府指定文化財） 277 点 |
| (2) 上辻家資料 | 132 点 | ・古銭（大阪府指定文化財） 4 箱 3,078 点 |
| | | ・その他博物場資料 |
| | | ■その他写真・図面・図書資料 一括 |

令和元（平成 31）年度調査・研究等の検討会

| | |
|---|--|
| 第1回 平成31年4月17日（水） 「河内名所図会に描かれた持尾古墳群と久米の岩橋」 山本 彰 | 第6回 令和元年10月9日（水） 「デジタル技術の導入と検討－特にDTPについて」 藤井陽輔 |
| 第2回 令和元年5月7日（水） 「施工パッケージ型積算方式の導入および今後の運用」 石角三男 | 第7回 平成30年11月13日（水） 「世界遺産を知る」 木村啓章 |
| 第3回 令和元年6月12日（水） 「東大阪市鬼塚遺跡の調査成果」 奈良拓弥 | 第8回 令和元年12月11日（水） 「伽山古墳の調査」 山本 彰 |
| 第4回 令和元年7月10日（水） 「文化財保護法制定当初における『文化財の活用』意味内容の検討－『文化財保護法詳説』『学習指導要領における文化財の手引き』を中心に」 石田尚子 | 第9回 令和2年1月8日（水） 「41年の反省」 阪田育功 |
| 第5回 令和元年9月11日（水） 「簡易積算プログラムの試用開始について」 石角三男 | 第10回 令和2年2月12日（水） 「これまでの発掘調査をふりかえって－いろいろありました・・・」 藤田道子 |
| | 第11回 令和2年3月11日（水） 「百舌鳥・古市古墳群 世界遺産登録を振り返る」 福田英人 |

令和元（平成 31）年度大阪府教育庁文化財保護課刊行物一覧

| | |
|--|-----------------------------|
| 大阪府埋蔵文化財調査報告 2019-1 『福井城跡B地点－一般府道余野茨木線建設工事に伴う発掘調査－』 | 『大阪府水中遺跡関連文化財調査報告書 I』 |
| 2019-2 『宮園遺跡II－大阪府営堺宮園第1期住宅（建て替え）道路整備に伴う発掘調査－』 | 年報 『大阪府教育庁文化財調査事務所年報 23』 |
| 2019-3 『久宝寺遺跡－久宝寺緑地整備事業に伴う発掘調査－』 | |
| 2019-4 『上垣内遺跡III－都市計画道路梅が丘高柳線の建設に伴う発掘調査－』 | |

令和元（平成31）年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

表6 實物資料・複製資料長期貸出

表7 家物資料・複製資料短期貸出

| 件数 | 申請者 | 道 跡 | 資料内容 | 点数 | 目的 |
|----|-------------------------------|----------|---|-----|---|
| 1 | 静岡博物館 | 応神陵古墳外堤 | 円筒埴輪3、盾形埴輪1 | 4 | 令和元年度特別展「百舌鳥古墳群—巨大な墓の誕生—」における展示 |
| 2 | 和泉市教育委員会 | 陶器遺跡 | 須恵器（身盘3、蓋2、無蓋高杯3、有蓋高杯2、鉢1、台付鉢1、こねわ1、知恵瓶1、知恵瓶1、器皿1、乾漆1台6) | 22 | 和泉市初の全国性史学館平成31年度夏季特別展「『須恵器』展—泉北丘陵跡の埴輪—」における展示 |
| 3 | 大阪府立近づく飛鳥博物館 | 土師の里遺跡 | 土師器（杯8、高杯4、鉢2、罐2、小形丸底瓶2）、須恵器（杯身1、蓋1）、瓦片25 | 31 | 令和元年春夏定期展別展「百舌鳥・古市古墳群と土師の里」における展示 |
| | | 千手山東塚六群 | 金冠附属品（鉢1、刀子1、耳環1、納骨匣1） | | |
| 4 | 吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同体吉野ヶ里公園管理センター | 吉野ヶ里遺跡 | 房生土器（盃6、盤2、高杯2、扁壺9）、石器（太型蛤貝化石4、柱状石片4）、石斧1、石臼1、石研磨1、石鍛錬1 | 33 | 特別展「よみがえる奈良都城『國』—世人伝ひの二ノ塔をさぐり—『都城と國の『國』—前篇—』における展示 |
| 5 | 和泉市立紀伊風土記の丘 | 藤の森古墳 | 鉄器（刀 6、鍔4、小札1、高鏡4）、ガラス丸玉77 | 54 | 令和元年年度特別展「開拓した様—横浜式古墳と黃帝の世界—」における展示 |
| | | 平尾遺跡 | 土師器（高10、盤1、高杯1）、須恵器（杯身1、正D底3、小皿2）、丹羽井4 | | |
| 6 | 大阪府立狭山池博物館 | 坂守寺遺跡 | 須恵器1（「調」の刻印） | 54 | 令和元年度特別展「樹木年輪と古代の気候変動」における展示 |
| | | 応神陵古墳外堤 | 円筒埴輪1 | | |
| 7 | 高崎市教育委員会 | 坂守北遺跡 | 劉備墓塔 | 15 | 静岡市考古博物館特別展「塙を作り、運ぶ～伊勢奥をめぐって～」における展示 |
| | | | | | |
| 8 | 葛城市歴史博物館 | シヨウカ古墳 | 須恵器（大腹1、無蓋高杯4、四脚壺1）、金銅製輪軸4、角軸輪軸、文鏡御酒波刃太刀柄頭1、地主軸輪、文鏡御酒波刃太刀柄頭1、如意輪軸1、金銅鏡4、小札甲7、報金具（腰袋1）、金銅全余金具1（腰袋金具1）、2曲鏡片2、真地金鏡合葉鏡2、2雪鏡片1、准律鏡鉛片20、絞目1、餅全具3、扇合金1、金板4 | 64 | 第2回特別展「慈城と轟谷の駿太斯古墳—竹内街道と轟谷の王墓—」における展示 |
| 9 | 八尾市立歴史民俗資料館 | 東堀遺跡 | 西周茶碗と円筒埴輪2 | 2 | 令和元年度特別展「山義寺 発見！—古国史館別定記—」における展示 |
| | | | 現行六軒草文革丸瓦、均整草文革平瓦 | | |
| 10 | 大阪府立近づく飛鳥博物館 | 坂守北遺跡 | 須恵器12、陶質土器1、須恵器（杯身3、蓋3）、有蓋高杯1、有蓋高杯1、無蓋高杯2）、土師器（盤1、鉢8）、滑石製鏡1、541点 | 617 | 令和元年度秋季企画展「ヤマト王族とその拠点—政治拠点と経済拠点—」における展示 |
| | | 大船山遺跡 | ワゴ形鏡16、石鏡3、石鏡2、櫻形鋗治鏡8、合款鉄鏡2 | | |
| | | 小島東遺跡 | 須恵器8、鹿角製刀具2枚、鹿角製刀柄1、鹿角裁衣1、鉢2、土器4 | | |
| | | 池原・古方寺遺跡 | 鏡頭3、土師器3 | | |
| 11 | 四條畷市教育委員会 | 難原遺跡 | 須恵器6、房生土器（シエーマンが描かれた土器部1、記符文土器3、千手始土器1、台付鉢皿1） | 15 | 四條畷市立歴史民俗資料館第34回特別展「垂露鏡とKARIYA—難原遺跡房生時代須恵器の変遷—」における展示 |
| | | | | | |
| 12 | 大阪府狭山市教育委員会 | 狭山陣屋跡 | 抹茶碗1、丸皿1、柄付碗1、陶器碗1、皿1、瓦質鉢1 | 6 | 大阪府狭山市立歴史資料館令和元年度特別展「箕山陣屋の興亡と氏長式公の生涯 350年記念 空手道の発展—前半北条氏の足跡—」における展示 |
| | | | | | |
| 13 | 大阪府立近づく飛鳥博物館 | 森中遺跡 | 陶質土器2、須恵器2個、土師器2個、土師器1 | 3 | 令和元年冬季企画展「歴史空間おとおがく展」における展示 |
| | | | | | |
| 14 | 京都府京都文化博物館 | 吉志原東塚跡 | トラン3 | 3 | 令和2年度夏季企画展「京の翠たゞぎの精神—鉱物と緑色文化—」における展示 |
| | | | | | |

表8 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

| 件数 | 依頼者 | 掲載 用紙 提出 | 種類 | 道跡等 | 内 容 | 点数 | 目的/掲載誌 |
|----|---|----------------------------------|--|--|--|--|---|
| 1 | 八尾市立埋蔵文化財調査センター 指定管理者公益財團法人八尾市文化財研究調査会 | 貸出 用紙 転載 写真 (デジタル) | 貴船道跡 或成寺道跡 木の道跡 志紀道跡 田中山道跡 | 貴船1号塼形埴輪、A区発生地代表陶器全量、D区 SB6005A・B 方形高輪基全量、93-2 調査区第1道跡面全量、第1道跡面 SB-E1 全量、1号木柱代表出土状況 外引式古代前田道跡面全量 第12道跡面 外引式古代前田道跡面全量 | 12 編集「ぶらり八尾考古学史散歩」地下に残された八尾の歴史を歩く（西部・中部編）No.87（ユネスコ世界遺産センター発行）に掲載 | 12 | 12 編集「ぶらり八尾考古学史散歩」地下に残された八尾の歴史を歩く（西部・中部編）No.87（ユネスコ世界遺産センター発行）に掲載 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 2 | 堺市 | 転載 写真 | 西宮古墳群 | 出土印彫埴輪 | 1 「堺の文化財」百舌鳥古墳群（改訂版）に掲載 | 1 | 1 「堺の文化財」百舌鳥古墳群（改訂版）に掲載 |
| 3 | ナレコムスタッフ株式会社 | 貸出 用紙 | 写真 (デジタル) | 田中山道跡 | 石碑 | 1 NHK BS プレミアム「英雄たちの道跡」近畿二ノ宮SP 「志紀」土碑をしたる住人たちー讐文と伴生をつなぐミステリーで放映 | 1 NHK BS プレミアム「英雄たちの道跡」近畿二ノ宮SP 「志紀」土碑をしたる住人たちー讐文と伴生をつなぐミステリーで放映 |
| 4 | 株式会社フォト・オリジナル | 転載 写真 | 西邑空跡群 | 鏡池裏器 | 1 中学校進学テキスト社会・歴史 PDF 版（株式会社文理館行）に掲載 | 1 中学校進学テキスト社会・歴史 PDF 版（株式会社文理館行）に掲載 | |
| 5 | 堺市博物館 | 貸出 用紙 (デジタル) | 写真 (デジタル) | 志紀神陵古墳外壁 | 円形埴輪3、盾形埴輪1 | 4 特別展「百舌鳥古墳群—百大墓の時代」における岡畠、尾崎、白川、浜田各広報媒体に掲載 | 4 特別展「百舌鳥古墳群—百大墓の時代」における岡畠、尾崎、白川、浜田各広報媒体に掲載 |
| 6 | 和泉市教育委員会 | 掲載 用紙 写真 貸出 用紙 転載 | 陶器道跡 向智道跡 西邑空跡群 向智道跡 | 鏡池裏器（杯身3、杯蓋2、無底杯3本、有底杯2本、鉢1、台付鉢1、こね跡1、如意頭1、如意頭1、盾形埴輪1、盾形埴輪1、乾漆罐6本） 向智道跡 向智道跡航空撮影写真 西邑空跡群 西邑空跡群写真 | 25 和泉いわくの国の中学校歴史教科書と元年度夏季特別展「堺遺跡群—東・北支那陸路駆除の軌跡」における展示ハンドブック、岡畠等へ掲載 | 25 和泉いわくの国の中学校歴史教科書と元年度夏季特別展「堺遺跡群—東・北支那陸路駆除の軌跡」における展示ハンドブック、岡畠等へ掲載 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 7 | 大阪府立近畿鳥居博物館 | 貸出 用紙 (デジタル) | 土師の里遺跡 玉手山(東横穴)六角 石室 | 79-17区西区全量、79-17区SKD1遺物出土状況 A型横穴、B型横穴、B5横穴 A型横穴、B型横穴、A5横穴 | 7 合併元年度夏季特別展「百舌鳥・吉古山群と土師氏」における岡畠、ハカル展示、岡畠戸籍、広報媒体として使用 | 7 合併元年度夏季特別展「百舌鳥・吉古山群と土師氏」における岡畠、ハカル展示、岡畠戸籍、広報媒体として使用 | |
| 8 | 株式会社スリーゼン | 転載 写真 | 津堂彌山古墳 | 御円門の石室と長持形石棺 | 1 松本武彦著「考古学から学ぶ古墳入門」（講談社）の書籍及び電子書籍に掲載 | 1 松本武彦著「考古学から学ぶ古墳入門」（講談社）の書籍及び電子書籍に掲載 | |

| 件数 | 依頼者 | 国際 和歌 賞 | 種類 | 道跡等 | 内 容 | 点数 | 目的/掲載誌 |
|----|-----------------------|---------------|--------------|----------------------------|--|----|--|
| 9 | 新潟市立歴史資料館 | 貸出 掲載 | 写真 | 玉手山 10号墳 越後御山古墳 | 埴塚、前方部粘土櫛削出状況、粘土櫛削出状況(アッパー) 前方部側面、埴塚削出状況 | 4 | 令和元年度夏季企画展「歴史舞台・玉手山古墳」における図録、パネル展示、図録掲載、広報媒体として使用 |
| 10 | 株式会社スリーシーズン | 転載 | 写真 | 陶邑御跡 | TK13号室跡頭頂部舟形身、柄形、TG61号室跡頭頂部舟形身・舟形、TG63-1号室跡頭頂部舟形身・舟形 | 3 | 松本武蔵著「考古学から学ぶ古墳入門」(講談社)の書籍版及び電子版に掲載 |
| 11 | 小学館 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 大坂跡跡 | 京橋 | 1 | 「小学8年生」に掲載 |
| 12 | 公益財團法人東日本鉄道文化財団 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 觀音寺跡(信太 寺跡) | 織机瓦「第古」 | 1 | 旧新潟停車場歴史資料展示室第52回企画展「古代文字の世界—往古とコレクションを中心として—」における展示パネル等に使用 |
| 13 | 個人 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 鳥谷寺跡 | 織机瓦「玉作多飛鳥坪」 | 1 | |
| 14 | 個人 | 掲載 | 写真 | 鶴山古墳跡 | 單軒草家野瓦丸、ガラス扣頭 | 2 | 著作物に掲載 |
| 15 | 松島山古墳保存会 | 転載 | 写真 図面 | 松島山古墳 | 松島山古墳石積石周囲、松島山古墳石積石側面圖、西南から見た石相外観、西北から見た石相外観 | 4 | パンフレット改訂版に掲載 |
| 16 | 大東市教育委員会 | 転載 | 写真 | 飯盛城跡 | 飯盛城跡周辺写真 | 5 | 発掘調査報告展「石が語る飯盛城—戦国山城の考古学—」における展示パネル等に使用 |
| 17 | 羽曳野市 | 転載 | 写真 | 津堂城山古墳 | 津堂城山古墳後円部の石室と長持形石棺 | 1 | 「吉古古墳群と羽曳野の歴史」に掲載 |
| 18 | 共同通信社大阪支社 | 転載 | 写真 | 津堂城山古墳 | 津堂城山古墳後円部の石室と長持形石棺 | 1 | 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に合わせ、その紹介記事に掲載 |
| 19 | 和歌山県立紀伊風土記の丘 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 藤の森古墳 | 楕円式石室、ガラス勾玉 | 5 | 令和元年度特別展「開かれた砦—楕円式石室と黄泉の原界—」における図録等に使用 |
| 20 | 中央公論社 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 大坂跡跡 | 馬糞・釘・鏡、銅鏡 | 3 | |
| 21 | 弘前大学人文社会学部 | 掲載 | 分析結果 | 鹿島、福万寺遺跡 鹿島、福万寺遺跡 | イネ种子保存体 イネ种子保存体 | 一式 | 「日本の出土米Ⅸ 西日本編」に掲載 |
| 22 | 大東市教育委員会 羽根町市教育委員会 | 転載 | 写真 | 飯盛城跡 | 飯盛城跡周辺写真 | 5 | 調査報告書「クローズアップ飯盛城 2019」における展示パネル、報告資料に使用 |
| 23 | 大阪府立筑山史博物館 | 掲載 | 写真 | 平尾遺跡 鶴谷付近遺跡 心神古墳外堤 | 井戸2-1出土土器、井戸3-1出土土器 鶴谷付近遺跡 心神古墳外堤 | 9 | 令和元年度特別展「櫛本年輪と古代の気候変動」における図録等に使用 |
| 24 | 姫路市教育委員会 | 掲載 掲載 | 写真 | 蘿屋北遺跡 | 櫛本年輪 | 15 | 姫路市考古博物館特別展「堀を作り、運ぶ—伊勢湾をめぐる—」における展示板等に使用 |
| 25 | 大阪府立近つ飛鳥博物館 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 蘿屋北遺跡 大船岡遺跡 小島北遺跡 | 馬糞土全貌、大船岡・神田土丘復元、神田土丘復元、後尾土丘3期の土器・製品、蘿屋北5期の土器・製品、蘿屋北5期の土器・製品、蘿屋北5期の土器・製品、馬糞土全貌、大船岡土器・製品59、小島北遺跡 | 9 | 令和元年度秋季企画展「ヤマト王墓とその拠点—政治権力と経済拠点—」における図録、パネル展示、図録掲載、広報媒体として使用 |
| 26 | イオン藤井寺ショッピングセンター | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 三ツ塚古墳 | 櫛本年輪土状況 | 1 | 店舗の歴史と藤井寺の歴史を併せて掲示板に使用 |
| 27 | 八尾市立歴史民俗資料館 | 掲載 掲載 | 写真 | 東郷遺跡 | 櫛本八井筒草文丸瓦、均整唐草文瓦片 | 2 | 令和元年度特別展「由義寺 発見!—国史跡指定記念—」における図録掲載 |
| 28 | 高城市歴史博物館 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | シヨツカ古墳 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳 | 平尾年輪全貌、シヨツカ古墳復元、石室上部、東郷全貌、飛鏡石、理賛の土器状況、須恵器4種、高持形石、高持形石復元、須恵器4種、高持形石内高持形石状況、兔甲撫耳櫛文胡蝶形大刀柄頭、兔甲撫耳櫛文胡蝶形大刀柄頭、龜文金雀唐草鞍金具、掛印小判、掛印各金、盒蓋、金盒、金盒、唐草鞍金具 | 20 | 第20回特別展「慈城と鎌谷の終末期古墳—竹内御正と鎌谷の王墓—」における展示パネル、印刷物等に使用 |
| 29 | 大阪府立近つ飛鳥博物館 | 転載 | 写真 | 小畠東遺跡 | 齒型刀目鑄貝、櫛本土器丸底1式 | 2 | 令和元年度秋季企画展「ヤマト王墓とその拠点—政治権力と経済拠点—」における図録、パネル展示、図録掲載、広報媒体として使用 |
| 30 | 古市古墳群世界文化遺産登録推進連絡会議 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 三ツ塚古墳 巖上古墳 藤の森古墳 | 櫛本年輪土状況 調査対象空室写真 藤の森古墳 | 6 | 「古市古墳群を歩く」に掲載 |
| 31 | 四條畷市教育委員会 | 掲載 | 写真 | 蘿屋 掲載 | 調査、記文上器、台付長颈瓶 方形埴輪蓋付耳杯、埴輪頭部状況全貌、353SK、西地今里、酒添古全貌、シマーンが撮かれた土器片1枚、1、シマーンが撮かれた土器片1枚 白灰土顕微 | 11 | 四條畷市立歴史民俗資料館 第34回特別展「重要遺跡KARIYA—廻る遺跡再生対象点集落の変遷—」における展示パネルに使用 |

| 件数 | 依頼者 | 国別 初回 登録日 | 種類 | 道 路 等 | 内 容 | 点数 | 目的/掲載誌 |
|----|------------------------------------|-----------------|--------------------|---|---|----|---|
| 32 | 株式会社少年新聞社 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 三ツ塚古墳 | 修繕出土状況 | 1 | 「少年写真ニュース+PLUS」に掲載 |
| 33 | 株式会社雄山園 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 雁屋北遺跡 | 馬修理土坑、木製穀(表面) | 5 | 「馬の考古学」に掲載 |
| 34 | 個人 | 掲載 | 写真 | 雁屋北遺跡 | 獣・軽出土状況、輪鉄出土状況 | 3 | 「馬の考古学」に掲載 |
| 35 | 大東市教育委員会 羽林町教育委員会 | 掲載 | 写真 | 飯添城跡 | 飯添城跡周辺遺跡 | 5 | 「飯添城跡総合報告書」に掲載 |
| 36 | 株式会社山川出版社 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) 図面 | 土師の里遺跡 | 圓形埴輪、調査区位置図、圓形埴輪美術図 | 12 | 白石一郎先生奉章記念文集「古墳と国家形成期の酒田」に掲載 |
| 37 | 株式会社雄山園 | 掲載 | 写真 | 雁屋北遺跡 | 獣・軽・輪出土状況、輪鉄出土状況 | 3 | 「馬の考古学」に掲載 |
| 38 | 大阪狭山市教育委員会 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 狭山陣跡跡 | 2区3面瓦積構造状況、1区2面石列(第5号)南端部 | 2 | 大阪狭山市立郷土資料館令和元年度特別展「狭山陣跡中興の祖・安藤氏家生誕350年記念さやまのむね様—北条氏の足跡—」における開閉等に使用 |
| 39 | 個人 | 掲載 | 写真 | 小島東遺跡 | 鹿角刀鋸貝 | 1 | 研究資料に掲載 |
| 40 | 広島県立歴史博物館 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 三ツ塚古墳 | 修繕出土状況 | 1 | 令和元年度早春祭「黄泉への祈り—横穴式石室とは何か—」における説明パネルに使用 |
| 41 | 個人 | 掲載 | 写真 | 西陵古墳 | 石板圓 | 4 | 「大阪春秋」第177号に掲載 |
| | | | 図面 | 西小山古墳 | 石室・墓室内遺物位置図、崩落附骨及形跡復原示意图 | | |
| | | | 図面 | 糸川下遺跡 | 通鑑略図 | | |
| 42 | 熊本県立裝飾古墳館 | 掲載 | 写真 | 土保山古墳 | 弓 | 1 | 令和元年度企画展Ⅱ「八代海波瀬の銘傳古墳—哉れた文鏡の系譜—」における説明パネル及び、常設展「装飾古墳館」の説明パネルに使用 |
| 43 | 藤井寺市光元ボランティアの会 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 三ツ塚古墳 | 修繕出土状況 | 1 | 吉市古跡群ガイドブック」に掲載 |
| 44 | 大阪府立近畿鳥博物館 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 御中遺跡 | 全般、土坑48構出土状況、土坑145構出土状況、陶質土器300、陶質土器300に足文タスキ | 5 | 令和元年度冬季企画展「歴史発掘おおさか2019—大阪府立近畿鳥博物館新情報—」における説明パネル展示、開館説明、広報媒体として使用 |
| 45 | 株式会社小学館クリエイティブ | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 三ツ塚古墳 | 修繕出土状況 | 1 | 世界遺産百名島・吉市古墳群ガイド」に掲載 |
| 46 | 大手前学園 大手前大学通信教育部 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 西脇山遺跡 | TK73弓彌跡近景 | 1 | 大手前大学eラーニング科目「考古学の世界」に使用 |
| 47 | 本郷学会 | 掲載 | 写真 図面 | 大庭山遺跡 大庭北遺跡 池田寺遺跡 鶴谷山遺跡 日置山遺跡 吉井遺跡 曾根遺跡 | 木簡・表筒 木簡・表筒 木簡写真 津世瀬跡 曲輪山遺跡、丹戸ノ割跡 池上牛根遺跡 木簡写真 水止遺跡 西二ノ山遺跡 木簡・表筒 曾根山遺跡 大庭北遺跡 池田寺遺跡 木簡写真 鶴谷山遺跡 木簡・表筒 日置山遺跡 木簡・表筒 吉井遺跡 木簡写真 曾根遺跡 木簡写真 | 22 | 会誌「本郷研究」の電子化及びインターネット公開 |
| 48 | 高麗市 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 雁屋北遺跡 | 馬修理土坑 | 1 | 令和元年度冬季企画展「考古学からみた十二支」における展示パネルに使用 |
| 49 | 宮内省道・橋大路・瀬波から飛鳥へ日本最初の街路「大道」～活性化委員会 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 同遺跡 | 河内内蔵物の工房、跡間違遺物が大量積てらでていた大土坑B-2、和歌郡御所遺跡、平安時代末期～鎌倉時代初期構出土土器、室町時代構出土土器 | 5 | 日本遺産宮内街道・飛鳥路（大道）のVR動画作成 |
| 50 | 松原市教育委員会 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 大塚山古墳 | 全貌 | 1 | まつばらかるた大会会場での展示、松原市の文化財紹介映像に使用 |
| 51 | 株式会社雄山園 | 掲載 | 写真 | 雁屋北遺跡 | 馬修理土坑、木製穀(表面) | 5 | 「奈良考古学」第150号 特集「考古学はどこへ行くのか」に掲載 |
| 52 | 個人 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 池上曾根遺跡 | 摸擬圓形、方形圓溝模擬出 | 2 | 令和2年度「発掘された日本列島」展開催に掲載 |
| 53 | 八尾市教育委員会 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 八尾山遺跡 中田山遺跡 神宮寺跡 田井中遺跡 | 4.5ブロック大土坑土状況 1号・2号大土坑構出土状況 はさき山遺跡他 はさき山遺跡 通鑑跡各地の圓形・圓溝跡 貴船跡 鶴岡・土師器窯(墨書き「龜」) 円谷遺跡 巴形器窯 中・右山遺跡 中田山遺跡 土師器窯(墨書き「大住」・「南」) 神宮寺跡 通鑑跡(墨書き「大住」) 田井中遺跡 | 17 | 「新版八尾市史 考古編2」に掲載 |
| 54 | 個人 | 掲載 | 写真 | 花園山遺跡 | 野川伏鉢鍋(SK26-50) | 1 | 「ふるさと北八尾の探検地マップ」に掲載 |
| 55 | 京都府京都文化博物館 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 吉志部瓦窯跡 | H1号窯、N1号窯 | 2 | 令和2年度春季企画展「吉志部瓦窯の特徴と経緯—」における説明パネル、開館等に使用 |
| 56 | 高麗市 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 森原遺跡 | 古墳完闍後全貌 | 1 | 令和2年度春春季企画展「吉志部瓦窯六式の窯—古代技術の三段階—」における開閉等に説明パネルに使用 |

| 件数 | 依頼者 | 国領 現地 調査 提出 | 種類 | 遺跡等 | 内 容 | 点数 | 目的/掲載誌 |
|----|---------------------|----------------------|--------------|---|--|----|---|
| 57 | 藤井寺市教育委員会 | 閲覧 | 閲覧 | 土師の壇跡 | 円形埴輪 | 1 | 「石川流域遺跡群発掘調査報告」中の「松川原古墳出土の文物について」に掲載 |
| 58 | 個人 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 久宝寺遺跡 | 土手・土盛の検査状況、土手の断面、突出部断面の断面状況、突出部断面の断面状況、土盛の断面・削除状況 | 6 | 府立筑山地博物館研究報告 11 に掲載 |
| 59 | 市 | 転載 | 写真 | 那屋北遺跡 | 馬蹄形土壙、堀形墳 538-23 | 3 | 第 9 回百舌鳥古市古墳群講演会記録集「海を渡った交流の証—遺物からみた 5 世紀の後と朝鮮半島—」に掲載 |
| 60 | 八尾市教育委員会 | 転載 | 写真 | 轟古墳 | 圓文入の食いたる魚 | 1 | 「新版八尾市史 考古編 2」に掲載 |
| 61 | 個人 | 閲覧 | 閲覧 | 吉志部瓦窯跡 | 瓦、碌射陶器 | 7 | 「古代学会研究報告」第 16 号中の「石作窯・小埴窯発掘調査報告」に掲載 |
| 62 | 百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議 | 転載 | 写真 | 越谷古墳 津守城山古墳 二ツ塚古墳 古治山古墳 古奈山古墳 青池古墳 心神陵古墳外堤 藤山古墳 津亞山古墳 | 円形埴輪 円筒埴輪 移築出土状況 円筒埴輪 円筒埴輪 円筒埴輪 円筒埴輪 円筒埴輪 圓形埴輪 | 8 | 百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録記念誌に掲載 |
| 63 | 朝日カルチャーセンター川西教室 | 貸出 掲載 | 写真 (デジタル) | 西中瀬跡 | I 区出土圓文土器 | 1 | 講座「圓文人のくらしと土器」のポスター、チラシ等に掲載 |
| 64 | 市立中央図書館 | 閲覧 | 写真 | 心神陵古墳外堤 | 円形埴輪 3、盾形埴輪 1 | 4 | 市立博物館で開催された特別展「百舌鳥古墳群—四大墓の時代」における図版の電子化 |

表 9 資料閲覧

| 作 動 | 申 請 者(所 属) | 閲 覧 資 料 | 日 的 | 閲 覧 場 所 |
|-----|-----------------|---|-----|------------------|
| 1 | 市立博物館 | 心神陵古墳外堤出土埴輪 | 展示 | 調査事務所 |
| 2 | 個人(近畿自然博物館) | 土師の壇跡出土遺物、玉手山東、横穴群出土遺物 | 展示 | 調査事務所 |
| 3 | 個人(大阪大学) | 陶器遺跡出土遺物 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 4 | 個人(福井県) | 東山遺跡出土土坂 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 5 | 個人(大阪府文化財協会) | 明太子山古墳出土遺物 | 研究 | 調査事務所 |
| 6 | 和田山帆船及び伊勢丸の瓦 | 藤の森古墳出土瓦製品、玉 | 展示 | 調査事務所 |
| 7 | 個人(大阪府教育厅) | 大庭遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 8 | 鶴見市考古博物館 | 根尾北瀬跡出土埴輪、小島東瀬跡出土埴輪 | 展示 | 調査事務所 |
| 9 | 個人(大阪府教育厅) | 大庭遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 10 | 個人(大阪府教育厅) | 大岡遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 11 | 個人(大阪市文化財協会) | 余部・川中庭遺跡解説用パネル | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 12 | 個人(交野市教育委員会) | 日下貝塚出土鐵製品 | 研究 | 調査事務所 |
| 13 | 個人(市立博物館) | 加納・平山古墳出土遺物 | 展示 | 調査事務所 |
| 14 | 個人(京橋学園) | 色邑御陵郡 TK316 出土円筒瓶 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 15 | 個人(大阪市) | 根尾北瀬跡出土埴輪、大島東瀬跡出土埴輪 | 研究 | 調査事務所 |
| 16 | 個人(東大阪市文化財協会) | 荒田山田瀬跡遺跡写真、大庭北瀬跡遺跡写真、八云瀬跡遺跡写真、經糸瀬跡遺跡写真 | 研究 | 調査事務所 |
| 17 | 市立博物館 | 大庭有文財分室公開 | 開館 | 調査事務所 |
| 18 | 市立東山博物館 | 平尾遺跡出土遺物、鶴野寺遺跡出土遺物、心神陵古墳外堤 | 展示 | 調査事務所 |
| 19 | 天王寺動物園 | 白堀山古墳圓筒輪、写真 | 研究 | 調査事務所 |
| 20 | 個人(奈良文化財研究所) | 陶邑跡群 TK321 土山遺物 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 21 | 個人(奈良大学) | 陶邑跡群大 | 展示 | 調査事務所 |
| 22 | 個人(五つ島博物館) | 根尾北瀬跡出土遺物、小島東瀬跡出土遺物 | 展示 | 調査事務所 |
| 23 | 個人(大阪府立歴史民俗資料館) | 東郷遺跡出土十五 | 研究 | 調査事務所 |
| 24 | 個人(大阪市) | 小島北瀬跡出土埴輪 | 研究 | 調査事務所 |
| 25 | 個人(修井寺市教育委員会) | 新堂寺出土罐尾、和泉寺跡出土罐尾、秦寺出土罐尾、陶邑跡群 TG226 土山遺物 | 研究 | 調査事務所 奈良北収蔵庫* |
| 26 | 個人(奈良文化財研究所) | 根尾北瀬跡出土遺物 | 展示 | 出土収蔵庫 |
| 27 | 個人(大阪府教育厅) | 大庭遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 28 | 個人(大阪大学) | 陶器遺跡出土花崗台 | 研究 | 調査事務所 |
| 29 | 個人(大阪大学) | 道筋・鶴野寺遺跡出土遺物 | 研究 | 調査事務所 |
| 30 | 茨木市教育委員会 | 鶴野寺古墳圓筒輪、寫真 | 研究 | 調査事務所 |
| 31 | 個人(奈良文化財研究所) | 陶邑跡群 TK321 土山遺物 | 研究 | 重大发掘収蔵庫 |
| 32 | 個人(鶴澤大学) | 寶弘寺遺跡出土瓦器、鋼鑄古墳出土鉄器 | 研究 | 調査事務所 |
| 33 | 個人(五つ島博物館) | 根中瀬跡出土遺物、乃木坂古墳出土人骨 | 展示 | 調査事務所 |
| 34 | 個人(大阪府教育厅) | 大岡遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 35 | 個人(大阪大学) | 小島東瀬跡出土埴輪 | 研究 | 調査事務所 |
| 36 | 九鬼國立博物館 | 根尾北瀬跡出土遺物 | 展示 | 調査事務所 |
| 37 | 個人(大阪歴史博物館) | 根中瀬跡出土土山遺物 | 研究 | 調査事務所 |
| 38 | 明石文化財団 | 大阪府文財分室公園、地名表 | 研究 | 調査事務所 |
| 39 | 個人(大阪府教育厅) | 大庭遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 40 | 藤井寺市教育委員会 | 国府町遺跡西側面 | 行政的 | 調査事務所 |
| 41 | 個人(大阪府教育厅) | 大庭遺跡出土土坂輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 42 | 市立博物館 | 大庭北瀬跡出土遺物、八雲瀬跡出土遺物、輕道跡出土遺物 | 展示 | 調査事務所 |
| 43 | 市立博物館 | 根尾北瀬跡出土遺物、中道跡出土遺物 | 展示 | 調査事務所 |
| 44 | 京都文化博物館 | 吉志部・心神陵古墳出土埴輪、土師の里遺跡出土埴輪 | 展示 | 吹田市立博物館 |
| 45 | 個人(奈良文化財研究所) | 湯山古墳出土埴輪、調査画面、調査写真 | 研究 | 調査事務所 |
| 46 | 個人(奈良文化財研究所) | 湯山古墳出土埴輪 | 研究 | 出土収蔵庫 |
| 47 | 個人(奈良文化財研究所) | 湯山古墳出土埴輪 | 研究 | 調査事務所 |
| 48 | 個人(大阪大学) | 根尾遺跡出土遺物 | 研究 | 調査事務所 |

令和2年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

【文化財保護課】

06 - 6941 - 0351 (代表)

課長 保存管理グループ

文化財企画グループ

調査管理グループ

調査管理補佐

山上 弘

| | | |
|-----|------|------------------|
| 主査 | 横田 明 | 事務所・収蔵庫維持管理等 |
| 副主査 | 石角三夫 | 積算および竣工検査等 |
| 副主査 | 杉本清美 | 収蔵資料の整理等 |
| 副主査 | 藤井陽輔 | 文化財公開活用事業等 |
| 専門員 | 竹原伸次 | 資料貸出・閲覧等 |
| 専門員 | 藤田道子 | 報告書作成関連の遺物・資料整理等 |

調査事業グループ

グループ長 主査

井西貴子

事業調整総括

主査 関 真一

| | | |
|-------|------|---------------|
| 主任専門員 | 三木 弘 | 指導・発掘調査・遺物整理等 |
| 副主査 | 木村啓章 | 調整・発掘調査・遺物整理等 |
| 副主査 | 原田昌浩 | 調整・発掘調査・遺物整理等 |
| 技師 | 奈良拓弥 | 調整・発掘調査・遺物整理等 |
| 技師 | 大澤 嶽 | 調整・発掘調査・遺物整理等 |
| 技師 | 新尺雅弘 | 調整・発掘調査・遺物整理等 |

【文化財調査事務所】

072 - 291 - 7401 (代表)

大阪府教育庁文化財調査事務所年報24
発行日 令和2年10月31日
発 行 大阪府教育委員会
〒540-8571
大阪市中央区大手前2丁目
℡ 06-6941-0351（代表）
編 集 大阪府教育庁文化財調査事務所
〒590-0105
堺市南区竹城台3丁21-4
℡ 072-291-7401
印 刷 株式会社 近畿印刷センター
〒582-0001
柏原市本郷5丁目6番25号
℡ 072-972-5918